學　報
Kobe　College　Bulletin

ISSN0389－164X
NO. 1 6 5
2012. 7 . 3
神戸女学院
学報委員会

大学の中長期計画（2012~2022）

―これからの道標―

学　長　飯　　謙

Ⅰ．目指す姿
【大学像】　豊かな人間性と国際感覚を育む、日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女子大学。
【学生像】　21世紀にふさわしい教養と知性、高い語学力と「愛神愛隣」の精神を身につけ、どのような立場に置かれても十分に能力を発揮し、状況に立ち向かうことができる学生。

Ⅱ．取り組みの概要
1）英語教育の強化
2）リベラルアーツ教育の整備
3）学修支援環境の充実

本年４月より、学長職の第２期目に入りました。これからも皆さまにお支えいただき、この務めを果たしてまいる所存です。変わらぬご指導をくださいますようお願いいたします。今期の大きな仕事は、これからの神戸女学院大学が懐くヴィジョンの提示とその土台構築にあると考えております。本稿ではそれについて報告させていただきます。

神戸女学院は1875年の創立以来、高い評価をいただいてまいりました。大学では、この在り方を時代と対話しつつ、いっそう深めていくため、去る４月、以降10年間にわたって取り組む重点項目をまとめました。

まず計画策定の経緯について記すことといたします。すでにこの欄でも書かせていただいたことですが、日本の私学はこの10年ほど、その個性を明確にするよう求められてきました。一つには、教育機関は社会の公器として情報公開すべきであるとの流れに動かされてのことです。それとは別に学士の質保証の問題があります。この背景には、わが国の大学が個々人の自主性に委ねるとの名目で、学修の内容についてそれほど真摯に取り組んでこなかったことへの批判と反省がありました。これらを明示することによって、互いが切磋琢磨する関係に入るようにとの願いがあったと考えられます。

去る３月26日、文部科学省が設置する中央教育審議会大学分科会大学教育部会が、これまでの議論を集約した「審議まとめ」を公表しましたが、その認識を反映したものでした。この文書は大学教育の有効性について「国民が否定的に捉えている」という疑念の提示に始まり、「大学は学ぶところという原点に立ち返る」という提言をもって締め括られています。当然としか評しようのない表現で、襟を正して受け止めねばならない大学の現状を言い表しています。この文書は結語への途上で、大学における学修の「原点」に関する具体的な姿として、「『答えのない問題』を発見しその原因について考え、最善解

を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力…主体的に考える力を持ち…どんな状況にも自ら対応できる」ことをあげています。

この内容は、私たちが過去数年、本学の教学の在り方を言葉化してきた事柄と、部分的にではありますが重なりをもちます。すなわち、大学では2010年に教学の基本方針にあたる「ミッションステートメント」と「アドミッション・ポリシー」、「アカデミック・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」を公表しました。その中では、本学院に連なる人が隣人への共感性をもって、与えられた能力を自己目的にではなく、利害を超えて生かす力を身につける――自身の利益に引きずられることなく、深い意味で自由で自発的に隣人と共なる歩みをなすマインドを体得することを強調しました。これが神戸女学院の「寄付行為」に謳われた「キリストの教えと国際理解の精神」を起点としていることは言うまでもありません。

大学ではそれを念頭に、これからの10年間の取り組みを話し合い、過日、その計画をウェブ上で公表しました。そこには最初に本学と送り出す学生の未来像を記しています。本学の淵源は1885年設置の高等科（カレッジ部門）にあります。これが1948年認可の新制大学（現在の神戸女学院大学）につながります。その間、本学院はキリスト教主義学校、女子大学、そしてリベラルアーツ・カレッジのモデルとして役割を果たしてきました。この「大学像」では、創立以来の気概を忘れることなくもち続け、教育界に仕えるものでありたいとの決意を表明しています。「学生像」には、本学に学ぶ人が、世に出るにあたって、身体の一部とするべき事柄を記しています。これはミッションステートメントをパラフレーズしたものと申せます。その実現に向けて「取り組みの概要」として掲げた事柄について討議を始めました。

第１の点は英語教育に関わることです。繰り返すまでもなく、神戸女学院は英語教育において先駆的な実績を上げてきました。これにいっそうの磨きをかけます。大学では昨年秋の教授会研修会で英語教育について問題の核心に踏み込んだ議論をなし、年度末の2012年３月教授会で（仮）共通英語教育研究センター設立を決議して、この分野への新たな一歩を踏み出しました。センターは2013年４月の設立に向け、新任教員招聘やカリキュラムと独自教科書の作成等、精力的に準備を続けています。これによって、英語の基礎力修得はもちろん、その向上によって専攻する分野への関心を高め、さらに他者の思いを受容する人格性を深め、リベラルアーツ的学修の土台を構築することができます。

第２は、学生や社会のニーズと対話しながら、リベラルアーツ教育を再考・拡幅する試みです。近代以降のリベラルアーツ制度について、必ずしも共通理解が確立しているとは言い難い状態にあります。単なる一般教養あるいは幅広い教養といった理解もありますし、専門課程に先立つ基礎教育という位置づけで使うケースやもあります。しかし忘れてはならないのは、このシステムがもつ、異質な分野を結び合わせて新たな視点を開拓していく躍動性です。これは専門性の名の下に人も学問も分断され、苦しむ現代に、大切な息吹を吹き込む在り方です。また神戸女学院ではすでに1880年代末に、院長であったエミリー・ブラウン先生が、「師範学校」のような規定課程の受動的習得ではなく、自発的な学修による人格的な成長を実現するリベラルアーツの性格を強調しておられたことが思い起こされます。これは、学生と教員が、学校を機械的に学び教える資格の生産工場にせず、学生が教職員との生きた出会いの中で進む道を選び取る方式に目を向けたもので、“later specialization” の理念につながります。神戸女学院大学には、幸いにも人文科学系から社会科学系、そして自然科学系、さらに芸術系まで、人格完成の途上にある者の関心を耕す、広範な分野が用意されています。それらを生かし、この理念に応える、学科横断的、複合的かつ包括的に学ぶことのできるシステムを考案します。それによって学生の皆さんは、受験を考えていた段階では思いもつかなかった世界を垣間見ることでしょう。

第３に、上記を実現するにあたって、学生の皆さんに適切なアドヴァイスを提供する制度、課程・課外を問わず自発的に学ぶことのできる施設や環境などの整備を考えます。早速、図書館ではその具体的な取り組みの計画を始めてくださっています。

神戸女学院は変わらぬ理念のもと、堅実な教育活動を続けています。それを生かすために、新たな構想を迅速に実現する行動力を備えています。私はホームページの「学長メッセージ」で、神戸女学院が「理念を具体化する努力は常に進行形」と書いています。この中長期計画もその例証とするべく力を尽くしてまいります。

東日本大震災追悼礼拝

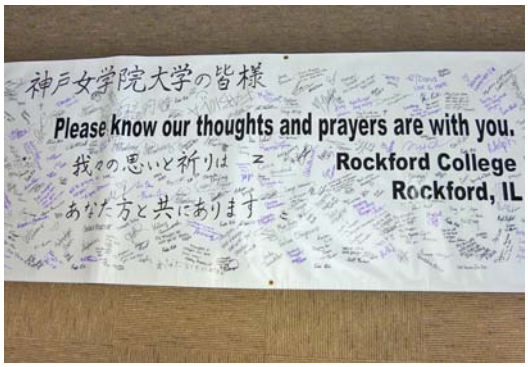
東日本大震災発生から一年が経過した翌３月12日（月）、生徒と学生、教職員を合わせて約百名がソール・チャペルに集い、「追悼礼拝」をささげました。

礼拝では、飯 謙学院チャプレンが司式と説教をご担当くださり、震災で犠牲となった方々、愛する人を失い、失意と悲しみにくれる方々、傷つかれた方々を覚え、平安と慰めと癒しを祈られました。死亡が確認されている15,854人の方々、行方の知れない3,155人の方々、故郷や自宅から離れざるを得ない353,935人の方々（数字はいずれも当日現在）という数字を聞き、私たちはあらためてその数を重く受けとめて祈りを合わせました。

説教では、本学院からの支援活動と被災者とのやりとりの一端が紹介され、愛をもってささげるところに神の力が働き、そこに豊かな実りがあるという聖書のメッセージを「追体験」する出来事であったことが語られました。そして「離れた地にある者でありながら、他者への共感を養い、いま神から願われていることを果たすこと、被災の地に継続的に関わり、支える業に携わる。その思いを新たにしたい」と結ばれました。

聖書の説き明かしを傾聴するなかで、出席者は支援における姿勢や方向性を確認するひとときが与えられたと思います。今後も建学の精神に基づき使命を果たしていくことを決意した時間でもありました。なお、ロックフォード大学から応援の寄せ書きを頂き、チャペル前に披露されたことも感謝して報告させていただきます。

（大学チャプレン補　中野 敬一）



ロックフォード大学からの応援メッセージ

メアリー・アンナ・ホルブルック記念館 定礎・献堂式

2012年３月28日（水）9:00からメアリー・アンナ・ホルブルック記念館の定礎・献堂式が、傾斜地に建つ建物前の狭い空間で行なわれた。

飯 謙学院チャプレンの司式のもと、讃美歌412番を一同で歌い、詩編126編5-6節が読み上げられた。舩橋 昭中高部長の祈禱のあと、森 孝一理事長・院長から挨拶があった。特に厳しい建築条件の中で、卓越した技術をもって設計・施工にあたってくださった竹中工務店、管理にあたってくださった類設計事務所、キャンパスとの調和を考えてくださった石田忠範氏、今竹 翠氏に感謝する。そして、この記念館に魂を吹き込むのは人間科学部の先生方である。女子大学におけるサイエンス教育、神戸女学院のリベラルアーツ教育にふさわしいものとなるように、またこれらの教育が実現するように用いてもらいたい。挨拶のあと、定礎銘板が森先生によって据え付けられて、定礎式は終了した。

引き続いて献堂式に移った。東松道雄総務部長から献堂の経緯が披露され、この記念館が地域共生センターとしての役割も果せる建物として予定通り完成した旨が報告された。飯先生によって献堂の祈禱が捧げられ、類設計事務所と竹中工務店に感謝状が贈呈された。一同で記念歌を歌い、飯先生の祝禱があった。建物脇でのテープカットのあと、参列者は各自、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館の中を見て回った。

（神戸女学院史料室）

KCCだより

［Kobe College Corporation-Japan Education Exchange（KCC-JEE）is a non-profit organization established in 1920 in Chicago, Illinois, U.S.A. Since the establishment, KCC-JEE has been in partnership with Kobe College to create cross-cultural educational experiences for students and teachers in Japan and in the U.S.］

Storing History

Marjorie Kinsey
KCC-JEE Vice President

Five years ago when the KCC-JEE office moved from downtown Chicago to suburban Northbrook, Illinois, eighty-five years of correspondence, financial records, photographs and memorabilia relocated with it. Some forty awkward boxes, three feet long and stuffed with file folders, were moved into a temporary home in a labyrinthine empty office down the corridor from the KCC office. Here the documents were to be organized so that they could be digitalized and eventually archived for public access.

Happy optimists, eager to catalog and save the history of KCC, board members began the sorting process in 2008, sure it would not take a year, even with the sporadic volunteer labor available. By March of 2012, aware that the office must move elsewhere in Northbrook this summer, half a dozen board members arrived early for the March board meeting, ready to finish up the task. The forty boxes had already been compacted to about twenty through work such as discarding obvious duplicates. However sorting the rest of these treasures has proved a formidable if fascinating task.

As the dedicated crew sat on the carpet of the empty offices, pouring over files, wonderful stories flew out of the opened boxes. As one KCHS alumna read through notes with careful advice from "Chica," she wondered out loud "Who's Chica?" The answer came immediately from a smiling Reiko Mrozik, "She's my mother." And so stories were heard about Chica Nagatani, long time Chicago resident and stalwart of the board for many years. Those March days were far too short so a group of four reformed in April for four days of concentrated categorization. They came from Indiana, Michigan and New York, hosted once more by the warmly hospitable Sugiuras. Piles of faded carbon copies could be discarded as long as the original were there. But then each category of material had to be sorted and organized in a way appropriate to itself. The work stayed lively because of the stories that kept emerging about the work of KCC. For instance, there had been exchanges far different from the high school exchanges we have seen recently. There were the young women, recent college graduates, who traveled as exchange students from America to KC in the late 1930's. Just a few files but filled with letters, memoirs, and stories of what these women subsequently did. There were the Nisei students who were able to leave the WWII internment camps in the western United States and continue their university education because of their sponsorship by KCC. Even financial notes told stories. In 1952 Tamio Kato, still fairly new in his long service to KC, visited a Congregational church in Elgin, Illinois. The social action committee of the church was moved to send regular contributions to KCC for a number of years.

Alas the crew had to leave Northbrook with the task unfinished. However twenty boxes had become fifteen. Why does it take so long? The hope is to store history, not to eliminate storage. Kobe College and Kobe College Corporation have a long friendship spanning 92 years which has reverberated in both education and intercultural understanding. Hopefully working slowly will preserve all the clues to this long history and rich friendship.

［コーベ・カレッジ・コーポレーション（KCC）は、1920年の創立以来、絶えず海の向こうから神戸女学院の学びを支えてくださっている、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体（NPO）です。この岡田山の美しいキャンパス造営に対する多大な貢献をはじめとして、その活動が神戸女学院にもたらしている恩恵は実に多岐に亘っています。2004年、KCC は21世紀におけるその活動方針を明確にするため、名前の後にジャパン・エデュケー

ション・エクスチェンジという副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。副会長のキンジー先生は、Bryant Drake Guest Professorship Program により1986年と1998年に客員教授として、神戸女学院大学の教壇に立たれました。今回、KCC-JEE 理事のサンボーン 安子さん（卒業生）がキンジー先生からの “KCC News” の日本語訳をお送りくださいました。]

「書類の歴史」

KCC-JEE 副会長　マージョリー・キンジー

5年前、KCC-JEE が事務所をシカゴ市内から郊外のイリノイ州、ノースブルック（Northbrook）に移したとき、85年分の手紙や文書、会計書類、写真やら、記念品等も一緒にノースブルックに引っ越しました。それらは、3フィートの長さの大きな箱の中に、フォルダーにはさんで詰め込まれ、全部で40箱も有りました。そして、新しい KCC 事務所から廊下を少し行ったところの大きな空き部屋に、しばらくの間、ということで収納されたのです。この歴史的な書類は、ちゃんと整理して、ゆくゆくはコンピューターに読み込んで、公文書として多くの人が読めるようにしたいと思っていたのです。

2008年、KCC の理事の有志がこの書類を整理する仕事を始めました。時折のボランティア仕事としてしかできませんでしたが、それでも最初は1年もあればきれいに整理できるだろうと楽天的に考えていました。しかし、そう簡単にはいきませんでした。2012年3月、同年夏に事務所を Northbrook の違う場所に移動しなければならないことになり、KCC の理事のボランティア6人ほどが3月の理事会の前に集まって、書類の整理にとりかかりました。その時までに、余分な複写を捨てたりして、40箱あった書類はすでに20箱になっていました。しかし、それ以上に片付けていくのは、非常に面白い仕事ではありましたが、とても大変な仕事でした。

ボランティア連中が書類の箱の保管されている空き部屋の床に座り込んで、書類を見てゆくと、色々な面白い話が見つかりました。ボランティアの1人、KCHS（中高部）の卒業生は箱の中に「ちか」と言う人が念入りに忠告を書いた物を見つけて、「ちかと言うのは、誰だろう」とつぶやきました。それを聞いた（KCC 理事の）Reiko Mrozik さんは、ニコニコしながら、「私の母ですよ」と答え、シカゴに住んでいて、理事として熱心に長年 KCC を支持してくれた、お母さんの長谷ちかさんのことを話してくれました。

3月の数日では仕事は終わらず、4月に4人のボランティアが丸4日かけて、書類の整理、目録作りに取り組みました。4人は、インディアナ、ミシガン、ニューヨークからやってきて、また、（KCC 副会長の）杉浦さんのお宅に泊めてもらってお世話になりました。原本以外の古ぼけた複写の書類は捨ててしまえるのですが、古い書類は、よく見て、それなりに、それぞれ正しく分類して整理してゆかねばなりません。次々と箱の中から出てくる興味深い話に元気付けられながら、仕事を進めました。例えば、我々が最近手がけてきた高校生の交流とは違った学生の交流がありました。1930年に、アメリカの大学卒業後、KC に留学した若い女性のフォルダーには、彼女からの手紙や、思い出の物、彼女がその後どうしたか等がファイルされてありました。第二次大戦時、KCC がスポンサーとなったおかげで、西部にあった強制収容所から出て、アメリカの大学生活を続けることができた日本人二世の学生たちがいました。経理の書類の中にさえ、色々な話がありました。1952年、その頃まだ若かった加藤民雄先生が、アメリカにいらして、イリノイ州の Elgin の Congregational（組合）教会でお話をされました。それに感動したこの教会の委員会はその後何年もの間、KCC に寄付を送ってくれました。

残念なことに4人は仕事を完了できずにノースブルックを後にしました。しかし、書類の箱は20箱から15箱になっていました。なぜ、こんなに時間がかかってしまうのでしょう。大切なのは、歴史の保存で、収納場所の除去ではありません。神戸女学院と Kobe College Corporation には、92年の長い歴史があります。教育と文化交流のすばらしい歴史です。時間をかけて整理して、この長い歴史と深い親交関係を保存していきたいです。

2012年度愛校バザー

今年の愛校バザーは、５月26日(土)に好天のもとで新緑の岡田山キャンパスに学生・生徒のご家族や同窓生をはじめ多くの来場者を迎えて開催されました。昨年は雨天のために来場者数があまり伸びなかったのですが、今年の来場者は６千人あまりと昨年に比べ約千人増の盛況ぶりとなり、現在集計中の売り上げも伸びるのではないかと期待されます。

最近のバザーをよくご存じの方は、今年の売店の配置について少し戸惑われたかもしれませんが、今回は昨年の雨を教訓に雨天時の混乱を解消すべく従来と比べて二つの大きな変更を実施いたしました。その一つは、第三体育館を開放してめぐみ会の売店を配置し、昨年までめぐみ会の売店会場としていた第二体育館に中高部の売店を配置しました。もう一つはグラウンドに22m×14m の大型テントを二張り設置したことです。このように雨天への備えは一応整えていましたが、好天に恵まれたことは何よりでした。これらの試みについて、様々ご感想はおありと思いますが、改めて検証をしたうえで特に大きな問題がなければ次年度以降もこのかたちを続けたいと思います。

昨年が神戸女学院愛校バザー100周年でしたが、その歴史に新たな100年への一歩を同窓生、PTA、学生・生徒をはじめ関係の皆様のご奉仕、ご協力によって盛況のうちに踏み出すことができましたことを心より感謝申しあげます。

（愛校バザー実行委員長）

本部席と大テント

新任のことば

個人情報保護のため、
６ページ目右段から
14ページ目は
削除しています。

＜留学報告＞

イギリスでの一年

和氣（直田）　節子

2010年８月から１年間、イギリス・ケンブリッジ大学 Lucy Cavendish College に Visiting Fellow として留学させていただきました。これを機に視野を広げたく、イギリス、ドイツのロマン主義精神と東洋思想との接点の研究に着手いたしました。Friends of Coleridge 主催の国際学会での口頭発表や、ケンブリッジ日本人会での講演原稿が満足いく論文に仕上がったときに、はじめて本当の留学報告をさせていただけると思っておりますので、この報告はさらっと、でお許しください。

Lucy Cavendish College は本学大学院と交流のある Cambridge Clare Hall よりも１年早く、21歳以上の“mature”な女性研究者のために設立された大学院です。学長以下、教授陣、職員まで全員女性というキャンパスに集う一人一人が、とても一言では語りきれないマイストーリーを誇りとし、それを武器に更なる社会貢献のチャンスと方法を得るべく研究する緊張感と面白さを堪能していました。物事を深く考え、論じあう楽しさに目覚めてしまった“mature”な年齢不詳の女性たちは、背筋を伸ばして風を切って歩く。そのような女性たちに、いかにして正当な敬意を表せるかが、イギリス紳士の度量であることに感心させられました。

また、ケンブリッジ大学総長として、フィリップ殿下が Lucy Cavendish を訪問され、計らずもお話しさせていただけた時の話題が英文学であったことは当然かもしれませんが、知り合った大学付属病院の先生方の英文学通には、度々、圧倒されました。自国の誇りとすべき点は極めること、見習うべし、と肝に銘じ帰国いたしました。留学中に参加したセミナーが常に意見交換で大幅延長しても、ゆとりを持って同席できていたことが今は懐かしいです。

（英文学科教授）

念願の The Cowper & Newton Museum（Olney, Buckinghamshire）での資料集め

留学報告

寺口　　浩

2011年４月から１ヶ年、早稲田大学大学院教職研究科に国内留学をお許しいただき、今年３月に学業を満了して岡田山に戻って参りました。

東京暮らしはおろか、下宿生活すら経験したことのなかった私にとって、50歳にしての一人暮らしはなかなかままならないものでしたが、コンビニ弁当とファーストフードは食べない、外食は一人ではしない、と心に決めて、６畳一間とキッチン、バス・トイレだけの小さな部屋での生活を始めました。

今回私は、一般院生が本来２年で修了する教職大学院のコースを１年で修了する現職教員院生のための課程に入学しました。講義は月曜から土曜まで週６日入っており、その上、足りない分を夏期休暇中の集中講義でカバーするため、神戸女学院の長い夏休みに慣れている私は、学ぶ機会に感謝しつつも、「院生なのにお盆しか休めないなんて…」と悲鳴を上げていました。

カリキュラムの内容は、教育課程関連、生徒指導関連、マネジメント関連など多岐に亘っていました。法学部を卒業し、中高社会科教員（他校）を経て、現在英語科教員として神戸女学院に奉職していますが、上記の内容をまとめて学ぶのは初めてだったため、新鮮で実り多き学びとなりました。詳細につきましては、改めて中高部紀要にてご報告させていただく予定です。

この度の国内留学をお許しくださった学院、中高部の生徒、保護者の皆さんと私の留守をカバーしてくださった同労をはじめ、ご支援くださったすべての方々に感謝し、持ち帰った成果を岡田山の教育の発展と、神さまのみ栄えのために用いて参る所存です。

（中高部英語科教諭）

教職大学院の同期現職院生と

人　　事

個人情報保護のため、一部削除しています。

学内人事

神戸女学院教育振興会寄付金

同窓生	590件	21,547,000円
保護者（大学・中高）	262件	25,490,000円
学外役員・評議員等	27件	2,020,000円
教職員・旧教職員等	66件	3,422,904円
一般有志	3件	118,380円
めぐみ会・企業法人等	18件	1,724,797円
合　計	966件	54,323,081円

（以上2011.4.1～2012.3.31受付分）

慶　弔

個人情報保護のため、一部削除しています。

栄　誉

神戸女学院2011年度決算報告及び2012年度事業計画

2011年度に実施した事業の内容及び2012年度事業計画の詳細は、『2011年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。
http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照下さい。

Ⅰ．2011年度神戸女学院決算報告

1．2011年度決算の概要

消費収支についてみると、定員管理の厳格化に伴う在校生の減少により学生生徒等納付金が減少（前年度比52百万円減）、また、私立大学等経常費補助金の算定方法変更等の影響により補助金収入も減少（前年度比71百万円減）しました。

一方、世界的なソブリンリスクの高まりを背景に、保有有価証券の信用リスクを低減することを目的として、財投機関債を売却した結果、93百万円の資産売却差額を計上しましたが、収入減を解消するには至らず、帰属収入は53億35百万円（前年度比85百万円減）となりました。

また、消費支出の部は、ネットワーク・情報教育システムの更新などにより教育研究経費が大幅に増加し、前年度比２億25百万円増の49億86百万円となりました。

その結果、帰属収支差額は３億48百万円の収入超過となりましたが、帰属収支差額比率は6.5％と、目標値である8.0％を下回る結果となりました。

さらに、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館新築工事（３億62百万円）等の施設関係支出、ネットワーク・情報教育システム（73百万円）等の設備関係支出などの設備投資を実施した結果、今年度は９億24百万円の基本金組入が必要となり、消費収支差額は、５億75百万円の消費支出超過となりました。

以上により、翌年度繰越消費支出超過額は７億98百万円となっていますが、2012年度も、留学生寮として利用するための学院隣接施設の購入や文学部１号館等の整備改修等、設備投資を計画しています。今後も更なる繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続き、この解消に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、財投機関債の売却や経営充実資金として新規借入を実行したことなどから、増収となりました。一方、支出の部は、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館の新築工事、ネットワーク・情報教育システムの導入などによる施設関係支出、設備関係支出の増加に加え、借入金の繰上償還も行ったことなどから、次年度繰越支払資金は前年度比３億71百万円減の25億50百万円となりました。

2．資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表１のとおりとなりました。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2011年度の本学院の資金収支計算書の概要について**前年度決算と対比**しながら以下に記載します。

（１）収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、在校生数の微減により、前年度比52百万円の減となりました。

（表１）**資金収支計算書**　（単位：百万円）

収入の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)
学生生徒等納付金収入	4,232	4,231	4,283	△ 52
手数料収入	90	98	97	1
寄付金収入	75	79	72	7
補助金収入	544	491	562	△ 71
資産運用収入	90	100	115	△ 15
資産売却収入	517	516	0	516
事業収入	62	61	109	△ 48
雑収入	168	172	178	△ 6
借入金等収入	300	300	—	300
前受金収入	805	842	805	37
その他の収入	660	665	361	304
資金収入調整勘定	△ 965	△ 943	△ 980	37
前年度繰越支払資金	2,921	2,921	2,588	333
収入の部合計	9,501	9,539	8,194	1,345

支出の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)
人件費支出	3,057	3,066	3,067	△ 1
教育研究経費支出	1,280	1,260	1,067	193
管理経費支出	317	307	284	23
借入金等利息支出	26	26	29	△ 3
借入金等返済支出	658	658	122	536
施設関係支出	392	389	100	289
設備関係支出	202	225	92	133
資産運用支出	998	997	435	562
その他の支出	188	205	196	9
資金支出調整勘定	△ 149	△ 148	△ 124	△ 24
次年度繰越支払資金	2,529	2,550	2,921	△ 371
支出の部合計	9,501	9,539	8,194	1,345

【手数料収入】
入学検定料などの手数料収入は、大学志願者数が順調に推移したことから、前年度並みを確保しています。
【寄付金収入】
本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員などからの寄付による寄付金収入は、教育振興会を通じての寄付が中心で、前年度比７百万円の増となりました。
【補助金収入】
国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費補助金の減（56百万円）や施設整備費補助金の減（10百万円）等により、今年度は71百万円の減となりました。
【資産運用収入】
今年度は、世界的なソブリンリスクの高まりから、信用リスクの低減を目的として財投機関債を売却したため、前年度比15百万円の減となりました。
【資産売却収入】
前年度は車両処分に伴う売却収入のみでしたが、今年度は、妙高高原の土地売却収入15百万円や財投機関債を中心とした有価証券売却収入４億99百万円を計上しています。
【事業収入】
人間科学部 ESD 関連の受託事業収入がなくなり（15百万円減）、学生寮エアコン等改修工事費27百万円を計上したこと等による補助活動収入の減（30百万円）などにより、48百万円の事業収入減となりました。
【雑収入】
ほぼ前年度並みですが、今年度は、私学退職金財団交付金収入の増（11百万円）となった一方、前年度計上していた特殊要因（中高部１号館に係る火災保険金12百万円）がなくなったため、全体では６百万円の減となりました。
【借入金等収入】
今年度は、日本私立学校振興・共済事業団から経営充実資金として３億円の新規借入を実行しています。
【前受金収入】
翌年度の授業料や入学金などの前受金収入は、大学入学者数が前年度比約30名増加したことなどにより、前年度比37百万円の増となりました。
【その他の収入】
今年度は、退職給与引当特定資産を取崩（前年度比46百万円減）した一方、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えた（４億６百万円）ことなどにより、３億４百万円増加しています。

（２）支出の部
【人件費支出】
今年度の人件費支出は、ほぼ前年度並みの支出となりました。
【教育研究経費支出】
教育研究のために支出した経費は、賃借料（リース料）が減少（49百万円減）した一方、ネットワーク・情報教育システムの更新に伴い、消耗品費等で２億20百万円の経費が発生したため、前年度比１億93百万円の増となっています。
【管理経費支出】
教育研究以外のために支出した経費は、印刷製本費が増加（25百万円増）したことなどにより、前年度比23百万円の増となっています。
【借入金等利息支出】
借入金等利息支出の減少は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
【借入金等返済支出】
前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済１億22百万円に加え、繰上償還（５億36百万円）を実施しました。
【施設関係支出】
施設関係支出は、前年度比２億89百万円の増となりました。今年度の主な内訳は、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館の新築工事に伴う建物支出（３億17百万円）、構築物支出（45百万円）です。
【設備関係支出】
教育研究用の機器備品や資産計上する図書などへの支出である設備関係支出は、前年度比１億33百万円の増となりました。今年度の主な内訳は、ネットワーク・情報教育システム（73百万円）、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館関連備品（18百万円）などの教育研究用機器備品支出（１億64百万円）、図書支出（29百万円）等です。
【資産運用支出】
今年度は、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えた（８億13百万円）ほか、第３号基本金引当資産の積増し（１億58百万円）及び岡田山建築保存引当特定資産の積増し（25百万円）を実施しました。
【その他の支出】
前期末未払金支払支出の減（21百万円）となっている一方、預り金支払支出の増（36百万円）、仮受金精算支出（15百万円）の計上などにより、前年比では微増となっています。

（表２）**消費収支計算書** （単位：百万円）

消費収入の部

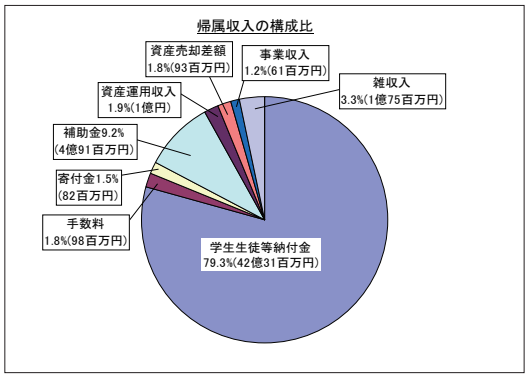
科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)-(B)
学生生徒等納付金	4,232	4,231	4,283	△ 52
手数料	90	98	97	1
寄付金	76	82	73	9
補助金	544	491	562	△ 71
資産運用収入	90	100	115	△ 15
資産売却差額	93	93	—	93
事業収入	62	61	109	△ 48
雑収入	168	175	178	△ 3
帰属収入合計	5,357	5,335	5,420	△ 85
基本金組入額合計	△ 925	△ 924	△ 262	△ 662
消費収入の部合計	4,432	4,411	5,157	△ 746

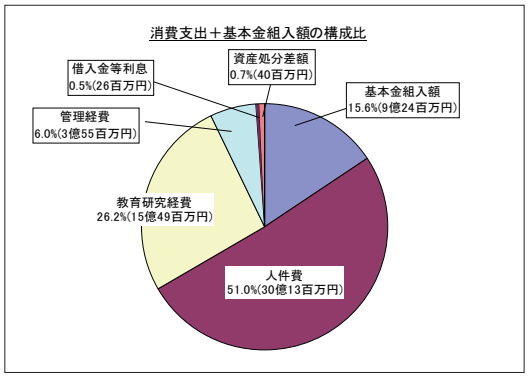
消費支出の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)-(B)
人件費	3,005	3,013	3,016	△ 3
教育研究経費	1,566	1,549	1,367	182
管理経費	365	355	337	18
借入金等利息	26	26	29	△ 3
資産処分差額	38	40	9	31
徴収不能額	—	0	—	0
消費支出の部合計	5,001	4,986	4,761	225

当年度消費収入(△支出)超過額	△ 569	△ 575	396	△ 971
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 222	△ 222	△ 621	399
基本金取崩額合計	—	—	2	△ 2
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 792	△ 798	△ 222	△ 576

帰属収支差額	355	348	658	△ 310





３．消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における当年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）・消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表２のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2011年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

（１）消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（３百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、固定資産や有価証券の売却益を計上しています。

これにより帰属収入の合計は、予算比21百万円減の53億35百万円となりました。

【基本金組入額】

第１号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる）へ７億66百万円を組入れました。主な内訳としては、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館の新築工事による建物支出および構築物支出（計３億62百万円）、ネットワーク・情報教育システム更新（73百万円）などであり、建物で２億65百万円、教育研究用機器備品で69百万円、施設関係への借入金返済分３億13百万円などを組入れています。

第３号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ１億58百万円を組入れました。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比21百万円減少し、44億11百万円となりました。

（２）消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出（１億71百万円）を控除し、退職給与引当金

（表３）**貸借対照表** （単位：百万円）

資産の部

科目	本年度末（A）	前年度末（B）	（A）－（B）
固定資産	14,833	14,484	349
有形固定資産	8,622	8,412	210
土地	1,173	1,205	△ 32
建物	4,456	4,341	115
構築物	552	530	22
教育研究用機器備品	498	418	80
その他の機器備品	27	21	6
図書	1,913	1,884	29
車両	0	0	0
建設仮勘定	0	9	△ 9
その他の固定資産	6,211	6,072	139
教育研究用ソフトウェア	20	19	1
その他のソフトウェア	15	—	15
電話加入権	3	3	0
有価証券	426	428	△ 2
差入保証金	3	3	0
出資金	27	27	0
貸与奨学金	295	302	△ 7
退職給与引当特定資産	1,506	1,560	△ 54
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存引当特定資産	51	25	26
第３号基本金引当資産	722	564	158
その他	0	0	0
流動資産	2,699	3,108	△ 409
現金預金	2,532	2,904	△ 372
修学旅行費預り資産	18	17	1
未収入金	137	155	△ 18
短期貸付金	—	0	△ 0
前払金	12	30	△ 18
資産の部合計	17,533	17,593	△ 60

負債の部

科目	本年度末（A）	前年度末（B）	（A）－（B）
固定負債	2,138	2,544	△ 406
長期借入金	614	972	△ 358
退職給与引当金	1,506	1,560	△ 54
長期未払金	18	11	7
流動負債	1,169	1,171	△ 2
短期借入金	122	122	0
未払金	110	98	12
前受金	842	805	37
預り金	75	112	△ 37
修学旅行費預り金	18	17	1
仮受金	—	15	△ 15
負債の部合計	3,308	3,716	△ 408

基本金の部

科目	本年度末（A）	前年度末（B）	（A）－（B）
第１号基本金	13,928	13,161	767
第３号基本金	722	564	158
第４号基本金	373	373	0
基本金の部合計	15,023	14,099	924

消費収支差額の部

科目	本年度末（A）	前年度末（B）	（A）－（B）
翌年度繰越消費収入（△支出）超過額	△ 798	△ 222	△ 576
消費収支差額の部合計	△ 798	△ 222	△ 576

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計

科目	本年度末（A）	前年度末（B）	（A）－（B）
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,533	17,593	△ 60

繰入額（１億17百万円）を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額（計３億37百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比14百万円減の49億86百万円となりました。

４．貸借対照表

貸借対照表は、貸借対照表日（2012年３月31日）における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。

大科目レベルの貸借対照表は、表３のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2011年度の本学院の貸借対照表の概要は以下のとおりです。

（１）資産の部

資産の部は、前年度末比60百万円減の175億33百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

【固定資産】

土地・建物・備品などの有形固定資産は、メアリー・アンナ・ホルブルック記念館新築工事などにより今年度の取得額が減価償却による減少額を上回ったため、前年度末比２億10百万円増の86億22百万円となりました。

その他の固定資産は、退職給与引当特定資産を取崩した一方、第３号基本金引当資産の積増しなどにより、前年度末比１億39百万円増の62億11百万円となりました。

その結果、固定資産は、前年度末比３億49百万円増の148億33百万円となりました。

【流動資産】

流動資産は、資金収支活動の結果による現預金の減を主因として、前年度末比４億９百万円減の26億99百万円となりました。

（２）負債の部

負債の部は、前年度末比４億８百万円減の33億８百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

【固定負債】

固定負債は、日本私立学校振興・共済事業団から新規借入３億円を実行したものの、借入金の約定返済（１億22百万円）や繰上償還（５億36百万円）による減、勤続年数の長い教職員の退職に伴う退職給与引当金の減（54百万円）などにより、前年度末比４億６百万円減の21億38百万円となりました。

【流動負債】

流動負債は、ほぼ前年度並みの11億69百万円となりました。

（３）基本金の部

基本金の部は、前年度末比９億24百万円増の150億23百万円となりました。これは、第１号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組入れる）の増加（７億67百万円）、第３号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）の増加（１億58百万円）によるものです。

（４）消費収支差額の部

消費収支差額の部は、前年度比５億76百万円減の７億98百万円の繰越消費支出超過となりました。

Ⅱ．2012年度神戸女学院事業計画

１．今後の運営方針及び2012年度予算編成について

神戸女学院はキリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹とし、豊かな自然とヴォーリズ設計による校舎群が美しく調和する岡田山のキャンパスにおいてリベラルアーツ＆サイエンス教育を実践し女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。この全人教育の豊かな質と環境をさらに向上・発展させるため引き続き有効な事業計画を実施し、併せてめざす教育事業の永続性を担保するべく財務基盤の強化を図ってまいります。

2011年度は、新教育実験棟メアリー・アンナ・ホルブルック記念館の建築、また情報処理関連教室の設備、認証システムおよびネットワーク関連設備の更新・維持等の大型事業に取り組み、教育環境の整備、向上に寄与することとなりました。しかし、収入面においては、入学定員管理の厳格化のもと学納金収入は逓減期に入り、また手数料、寄付金、補助金の伸長や資産運用収入の改善にはますます厳しい社会経済状況となっています。

2012年度は、引き続きハード、ソフト両面から学生・生徒のための教育環境整備を主眼に、必要な事業について予算措置を行います。施設・設備面では、長期整備計画にもとづくヴォーリズ校舎や文学部１号館をはじめとする教室の整備改修、防火・防災対策の強化、バリアフリーの推進（エレベーター増設）等を順次実施してまいります。また、語学教育をはじめ今後の教育カリキュラム改革を視野に入れた教務システムの構築や、留学生受け入れなど国際交流の一層の活性化を目的とした学院隣接施設の購入に特別予算の措置をしています。

これらの結果、2012年度予算編成においては繰越消費支出超過額が拡大する見通しで、2008年度に策定した「主要財務比率の目標値」に比して一部の指標がマイナス方向に乖離することとなります。予算上の主な財務比率は、人件費比率57.1％（目標値57.0％）、教育研究経費比率28.3％（同27.6％）、帰属収支差額比率7.5％（同8.0％）となります。

2013年度には中高部２号館の建替えを予定しており、加えて消費税の増税が見込まれるなど厳しい財政状況が続きます。今後とも予算執行の合理性、妥当性の吟味を厳格化するとともに、無駄の排除、選択と集中を推進し、長期的な収支均衡へ向けた努力を引き続き進めてまいります。

２．2012年度予算書

以上の計画を受けて、2012年度資金収支予算書は、表４、消費収支予算書は表５のとおりとなりました。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。なお、前年度繰越支払資金、前年度繰越消費支出超過額は、予算編成時の額であり、決算金額とは異なります。）

（表４）

2012年度資金収支予算書

2012年4月 1日から
2013年3月31日まで

（単位：百万円）

収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,211
手数料収入	92
寄付金収入	72
補助金収入	524
資産運用収入	67
事業収入	94
雑収入	134
前受金収入	803
その他の収入	205
資金収入調整勘定	△ 912
前年度繰越支払資金	2,529
収入の部合計	7,819

支出の部	
科目	金額
人件費支出	2,992
教育研究経費支出	1,160
管理経費支出	317
借入金等利息支出	11
借入金等返済支出	112
施設関係支出	355
設備関係支出	156
資産運用支出	167
その他の支出	168
資金支出調整勘定	△ 130
次年度繰越支払資金	2,510
支出の部合計	7,819

（表５）

2012年度消費収支予算書

2012年4月 1日から
2013年3月31日まで

（単位：百万円）

消費収入の部	
科目	金額
学生生徒等納付金	4,211
手数料	92
寄付金	73
補助金	524
資産運用収入	67
事業収入	94
雑収入	134
帰属収入合計	5,195
基本金組入額合計	△ 659
消費収入の部合計	4,536

消費支出の部	
科目	金額
人件費	2,968
教育研究経費	1,472
管理経費	344
借入金等利息	11
資産処分差額	12
消費支出の部合計	4,807

当年度消費支出超過額	△ 270
前年度繰越消費支出超過額	△ 792
翌年度繰越消費支出超過額	△1,062

帰属収支差額	388

新刊紹介

岩田泰夫（総合文化学科教授）　著

①

②

①『私の教育実践１　主体的な学習を進めるための授業の実際』
②『私の教育実践２　ソーシャルワーカーになるための演習と実習の授業の実際』
相川書房　2012年１月刊
①177頁　1,800円＋税／②251頁　2,300円＋税

岩田泰夫先生がご自身の22年間の教育実践の集大成として『私の教育実践シリーズ』（全３巻）を記され、このたび１巻と２巻が上梓された。「これは（自分の）遺言だから…」と常々おっしゃっていただけに、やや重たい気持ちで背筋をピンと伸ばして本を開いてみた。読み進むうちに「おっ、読みやすい」「ここは授業に使える」と、岩田先生ワールドにすっかり引き込まれてしまった。

１冊目の『主体的な学習を進めるための授業の実際』では、授業の進め方、通信教育における面接授業の方法、授業でのロールプレイやゲームの活用方法、論文の書き方などが具体的に述べられ、全体を通して「主体的な学習を進めるための」方法が盛りだくさんに収録されている。例えば、「学生の自己評価」。学生が教員から評価されるだけでなく、自らの学習のパフォーマンスを振り返り、学生自身が評価するというのである。どう評価するかだけでなく、なぜそのように評価したかを、学生が実証的証拠を挙げて説明する。なるほど、ゼミで使えるやり方である。

２冊目の『ソーシャルワーカーになるための演習と実習の授業の実際』は、ソーシャルワークを教える教員やソーシャルワークを学ぶ学生にとっての演習・実習のマニュアル書である。しかしこれは単なるマニュアル書ではなく、〈骨太のマニュアル書〉である。あくまでもソーシャルワーク教育現場に即した実践的な内容でありつつ、根底にはしっかりとした理論が組み込まれている。そしてその内容の充実度から筆者の熱い思いが読み取れる。

ここまで惜しげもなく自らの教育実践をご教示してくださった岩田先生に感謝するばかりである。第３巻の公刊が待ち遠しい。

（総合文化学科教授　金田 知子）

新刊紹介

田辺希久子（文学研究科准教授）・中村昌弘（文学研究科准教授）・松縄順子（文学研究科特任教授）　訳
ダニエル・ジル　著

『通訳翻訳訓練
基本的概念とモデル』

みすず書房　2012年３月刊
359頁　5,000円＋税

理論と実践へのこの上ない手引き

これまで実務家が通訳や翻訳を教える場合、指針となったのは主に自分の経験であり、その教え方は必然的に「こうすべきだ」とか「こうすべきではない」というように、規範的にならざるを得なかった。実務家が通訳理論や翻訳理論を承知してはいても、それを実践と教育現場にうまく適用することは難しかったのである。この理論―実践―教育を結びつけたのが本書であり、1995年の初版刊行以来、通訳と翻訳の基本概念、モデル、テクニック、方略などをまとめたスキル獲得志向の定評あるテクストブックとして、世界中の通訳・翻訳教育担当教師や大学院生に利用されてきた。この名著が信頼できる実務家兼研究者を中心とする翻訳チームによって、日本語に翻訳されたのである。本書が英語以外の言語を扱う通訳・翻訳の教員と学生をはじめとする、より多くの読者に届くことになった意義は大きい。しかもこれは原著第２版（2009年）の翻訳であり、初版以降15年間の進歩を反映させている。初版と第２版の異同について簡単に触れておくと、新版では新しいトピックスとして、「推論と予測」、「生理的ストレス反応」、「社会文化的側面」、「作業記憶」などが追加されている。各章とも新しい知見を取り入れてかなりの書き直しを行っているが、特に本書の中核をなす第７章「通訳の努力モデル」は、作業記憶や「綱渡り仮説」などを中心に記述を刷新している。さらに第10章は内容を全面的に書き換え、通訳・翻訳訓練にどのように理論を取り入れるかを検討している。巻末には新たに簡単な用語集と人名索引を加え、事項索引も改訂して、より使いやすくなっている。翻訳は、訳語も妥当で読みやすく、入念な検討が行われたことがうかがえる。

（青山学院大学文学部教授　水野 的）

ＣＤ紹介

辻井　淳（音楽学科准教授）
（ヴァイオリン）
藤井由美　（ピアノ）

《金鶏》幻想曲
ブルッフのロマンス 他 全16曲 小品集
ISODA　2011年８月録音
2,500円（税込）

“Fiddler on the Roof”

院生が面白いという授業を覗きに行く。N 先生、TV『世界一受けたい授業』でお馴染みの名調子。映像：ルーマニアの農村、結婚式のお祭りの陽気な音楽、「この楽器 Mendelssohn の concerto を弾く時は “Violin” という。でも民俗楽器としては “Fiddle” と呼ぶんだ。」（ムムッ、そうだったのか！）「このくらいのことは皆知ってるよね……」（ナヌッ、みんな知ってるんだ！）

教会でも安酒場でも宮殿でもストリートでも、燕尾服姿でも帽子を前に置いてもサマになるこの楽器。二つの名前を持つ（露骨なウケウリ！）。音楽大学ではなかなか “Fiddle” の部分は話題にならない。民俗芸能、非体系的な部分は大学が苦手とするところ。この CD、時にさりげなく、時に大胆に Fiddle が鳴り響く。たまらないのである。

全16曲、ヒトラーの言う退廃音楽が並ぶのは偶然ではないだろう。ユダヤ系＆ジプシー音楽称賛者、欧州辺境の怪しげな名前、純ドイツ的な作曲家も一人見かけるが、ナチスから演奏禁止処分をくらっている。異邦人たちの音楽は解決されるべき音が解決すべき音に導かれずあてもなくさまよい、私の整然とした美しい音楽理論を次々に打砕いて行く。正統派教師としては困ってしまうのである。グッとくるわけにはいかないのである。だから小声で言っておく。　『この CD 大好き！』

端整で正確無比な演奏の向こう側に、名もない Fiddler の姿が見える。安酒場？いや、屋根の上か？

（音楽学科教授　中村 健）

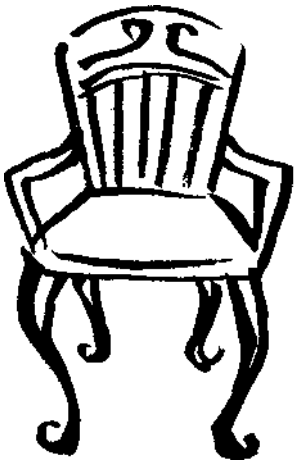
その他の新刊一覧

飯田祐子（総合文化学科教授）　他著
『兵庫近代文学事典』　（和泉書院）

飯　謙（総合文化学科教授）　他著
『旧約聖書を学ぶ人のために』
（世界思想社教学社）

石川康宏（総合文化学科教授）　他著
『マルクスの思想を今に生かす』　（学習の友社）

吉田純子（英文学科教授）　他著
『マイノリティは苦しみをのりこえて
アメリカ思春期文学をよむ』　（冬弓舎）



史料室の窓(28)

ホルブルック先生のこと

神戸女学院史料室

神戸女学院の建物には、文学館、音楽館、体育館というように普通の名前が付いているもののほかにデフォレスト記念館やジョージ・オルチン記念音楽館といった特別な名前の付いているものがあります。これらの名前のほとんどは神戸女学院の教育に関わりのあった人々を記念して付けられています(ミリアム館だけは聖書からとられた名前ですが)。皆さんが一番よく耳にする名前はデフォレスト記念館でしょうか。これは神戸女学院第5代院長シャーロット・バージス・デフォレスト(Charlotte Burgis DeForest)先生を記念したものです。名前の付いている記念館は全部で7館あります(講堂とチャペルを合わせると9館になります)。2012年春、これらに新しい記念館が加わりました。メアリー・アンナ・ホルブルック記念館—社交館横、体育館への渡り廊下のグラウンドから見て裏側にできた建物で、講義室があり、主に環境科学、生命科学の学生の実験・実習を行ないます。

この校舎の名前の元となったホルブルック先生のことをご紹介しましょう。メアリー・アンナ・ホルブルック(Mary Anna Holbrook, M. D. 1854-1910.)先生は1892年から1896年までと1907年から1910年までの二度にわたって神戸女学院で教鞭をとった婦人宣教師でした。仲間内ではホルブルック博士と呼ばれることもありました。というのは、この先生がれっきとしたお医者様だったからです。先生は神戸女学院の教育理念であるリベラルアーツ教育のモデル校であったアメリカのマウントホリヨーク・カレッジを卒業後、ミシガン大学で医学博士号を取得しました。アメリカの婦人としてはじめて医学博士号をとった人の一人といわれています。

ホルブルック先生は始め、神戸女学院に宣教師を派遣していたアメリカンボード(American Board of Commissioners for Foreign Missions)の中国伝道団に加わって活動していましたが、病気のために帰国し、母校で教職についていました。そのとき日本伝道を志し、「日本にマウントホリヨークを作りたい」と考え、教え子3人と構想を練り、アメリカンボードにその計画を諮りましたが、この案は入れられませんでした。しかし先生は、日本伝道に加わることが決まり、女子高等教育機関(カレッジ)を目指してカリキュラム改革、校地整備を行なっていた神戸英和女学校に赴任することになりました。思い描いていたものとは違っていましたが、日本におけるリベラルアーツ女子高等教育機関誕生に参画することができたのです。

Mary Anna Holbrook

先生は理化学部門の責任者として、教育内容の充実に貢献しました。理化学教育のために建てられた専用校舎・理化学館では、化学実験をはじめとして、生物学や心理学などの本格的な実験が行なわれました。また、先生は学生たちの勉学のためにサイエンス倶楽部を作り、学外から専門家を招いて講演会を度々開くなどして、理化学教育の振興のために尽くしました。現在の人間科学部の祖とも言える先生です。教育活動のほかに先生は、山本通キャンパスのリベラルアーツ教育を象徴する2棟の校舎—音楽館と前述の理化学館—の設計をしたとも言われています。

記念樹 いま むかし（最終回）

その61　シェイクスピア・ガーデンの草木

大川　徹

シェイクスピア・ガーデン（SG）の樹木については今までにレバノンシーダーなど少しだけですが書きました。しかし神戸女学院のSGには、シェイクスピアの戯曲に出てくる植物以外にも、英文学によく出てくる植物、創立100周年記念樹としてSGができる前からここに植えられていた樹木もあります。つまりSGにあるからといっても全てがシェイクスピアの戯曲に出てくる植物とは限らないので、混乱しないように、開園25周年を迎え歩きやすい歩道への改修を行った記念として、この際これらについて草も含めまとめておきます。

①英文学などによく出てくるがシェイクスピアの戯曲には関係ないもの

アカンサス（ハアザミ）：アザミの葉のようですがキツネノマゴ科の1m以上にもなる草でキク科のアザミの仲間ではありません。建築物の柱の上部などの模様として葉の形がよく用いられていますのでご存知の方も多いと思います。1株だけあります。

ワスレナグサ：現在は青やピンクの花が咲く草のワスレナグサが植えられていますが、シェイクスピアの時代のForget-Me-Notに近い植物は、木であって草ではないローズマリーのようです。触れればその香りが移り香となって長く忘れられない特徴からこう言われていたようです。現在では上記した草の方が、Forget-Me-Not（忘れな草、勿忘草）と言われています。

②開前から植えられていた記念樹

サイジョウガキ（西条柿）：渋柿で大きな果実がなるもので、元尼崎藩主の別邸であった桜井邸の正門入って右側の井戸の近くにあったものです。

カリン：2本ありますが共に100周年記念樹です。シェイクスピアに関係のあるセイヨウカリン、マルメロが開園時には手に入らなかったので近似種としてそのまま残したものです。

ヒイラギモチ（シナヒイラギ）：セイヨウヒイラギが入手できなかったので名前や姿が近い植物として植えたものです。セイヨウヒイラギは現在4株になって増えていますが、成長が遅いのでまだ目立ちません。東側の入口の両脇に1株ずつ、他に鉢植えの物が2株あります。

シェイクスピア・ガーデンのローズマリー

ソメイヨシノ：これも100周年の記念樹でそのまま残したものです。木陰を利用して下にカウスリップ、セイヨウトリカブト、スイセンの仲間など色々な草を植えています。

シャクヤク：ギリシャで最初に薬として利用した医者ペオニアを記念して、パイオニアの語源を知る手がかりの草として植えています。類似の木として木であるボタン（花王）もすぐ近くに。他にも少しありますが、およそこれくらいです。

シェイクスピアに関係する草や木は約110種類、その中でこの地に合う物やキャンパスのどこにも無いものはここに、年毎に草は種類をかえ植えてもらっていますが、原種また原種に近い種子や苗が手に入りにくくなってきているのが残念です。例えばケシは許可が無いと植えられないのでヒナゲシを植えていますが、ヒナゲシでも透き通るような4枚の赤黒い花弁で、いかにも毒々しい、しかし妖艶でもある、一重のもの、つまり英文学者の夏目漱石が「虞美人草」でたとえた女性の姿に似たものが理想でしょう。現在のものは低かったり、高くても八重だったりしてイメージがかなり違います。

さて28年間、年にほぼ3回ずつ書き続け記念樹についてはほぼ書き終えることができました。ちょうど今年度で定年になりますので、今回でこのシリーズも終りとします。

（中高部教諭）

＜オフィスの宝物＞

カウンセリングルームの宝物

カウンセリングルームは1984年に学生相談室として設立され、以来28年間学生の相談を受けてきました。その間に利用された学生さんの数は5590人を越え、また教職員や保護者、卒業生からの相談などは327人を数えます。カウンセリングルームの宝物はなんといってもスタッフの皆さんです。今まで多くの優秀なスタッフにお世話になってきました。現在お世話になっている非常勤カウンセラーは４人ですが、いずれ劣らぬユニークなキャラクターぞろいです。グループ担当の松本さんは、YMCA のリーダー出身で、幼稚園から老人大学まで幅広い年齢層のグループワークの経験者。アロマセラピストの資格もお持ちです。本学のカウンセラー歴？年の黒田さんは、おっとりとした優しいお母さんですが、実は某Ｋ大出身の才媛。でも、極度の方向音痴で、学内で迷子になったことも。いつもニコニコしていて一見そんなにたくましそうにはみえませんが、キリマンジャロも制覇した山ガールの谷崎さんは、小学校教諭と保育士の免許も持つ子どもに優しいお姉さん（？）。今年から新しく来ていただいている池内さんはとても奥ゆかしくて静かな方ですが、泡盛８杯以上飲んでも全く変わらない酒豪です。本人曰く「水みたいなものですね…」もったいないので彼女にお酒を勧めるのはやめましょう。そしてカウンセラー歴20？年の嘱託職員の大林さんはグルメでおしゃれなキャリアウーマン。でも買い物には慎重で、検討しすぎてなかなか決まらないことも。統計・調査担当の小池さんはスイーツの名前から統計の方法までわからないことは何でもすぐに調べてくれる我らがブレイン。コーディネーターには受付からパン作りまで手伝ってくださっている十河（そごう）さん、主婦歴〇年で片付け上手な三宅さんなど多彩な人材がそろっています。絶妙のチームワークで毎日楽しく一緒に仕事をさせていただいている安住班（!?）のユニークなスタッフに、是非一度会いに来てください。

（カウンセリングルーム）

キャンパスの片隅で…

正門から音楽館横をとおる緑豊かな坂道をのぼりデフォレスト記念館横をぬけ講堂にむかう途中でシェイクスピア・ガーデンと図書館新館の間の小径を右手にまがり緩やかな坂をくだるとジュリア・ダッドレー記念館（JD 館）がございます。2005年４月、研究所と女性学インスティチュートの事務室は統合され、JD 館入口真上（写真）におかれました。西に面した事務室の窓からは、図書館新館はもちろん阪神淡路大震災で倒壊した清思庵の東斜面から移植されたイロハモミジやシェイクスピア・ガーデン、文学館、アンジー・クルー記念館が望めます。自然豊かなキャンパスの四季の移ろいは小鳥たちのさえずる声からばかりではなく、年間の様々な行事に一喜一憂する学生・生徒の様子からも敏感に伝わってきます。

研究所は1954年に、女性学インスティチュートは1985年に設立され、それぞれ『論集』（通巻168号）、『女性学評論』（通巻26号）を発行しております。紀要掲載論文タイトルは国立情報学研究所の CiNii で検索可能です。今後は論文の開示にむけ、執筆された諸先生方や図書館はじめ関係する皆様のご協力を賜りたく、この場を借りてお願い申し上げます。また当事務室では、講演会、セミナー、科研費等の学内外の資金による研究補助業務を行っております。時代の潮流で、年々より厳格な運用を求められていますが、教職員など多くの方々のあたたかい御心に支えられ感謝の日々を送らせていただいております。

（研究所・女性学インスティチュートスタッフ一同）

大 学 報 告

音楽学科舞踊専攻第６回公演

去る３月８日、９日に、音楽学科舞踊専攻第６回公演が兵庫県立芸術文化センター中ホールにて行われました。２日間にわたり、多くの方々にご来場いただきました。

最初の作品は、グラハム・マッケルヴィー先生振付による、１・２年生による『Class at 13:20』。常日頃学生たちがマッケルヴィー先生のもとで学んでいる、マーサグラハムテクニックをベースとしたクラスのデモンストレーションで、舞踊専攻の伴奏要員、藤井さんと田中さんによるオリジナル音楽で、モダンダンスの持つ技法の美しさを再確認することができたと思います。

２作品目は、３・４年生による『Album』。これは卒業していく４年生と是非一緒に舞台に立ちたいという３年生の願いを私が作品にしました。女性が自分の人生のアルバムをめくりながら、いろんな事を考え、不安を抱えながらも未来へ向かっていく様子を表現しました。

３作品目は、開設以来毎回１・２年生によって踊られてきた『Here We Are!』。今まで毎回公演を見に来てくださっている方々から、「同じ作品が踊るダンサーによって変わっていく面白さがあって、毎回楽しみにしています。」というお言葉をいただき、改めてお客様の視点のすばらしさに気付きました。

最後の作品は、４年生による『Bardo』。この作品は、元々私がアメリカのシカゴにある舞踊団に振付した作品で、オランダの舞踊団のレパートリーにもなっているものです。大学に就任して以来、私がプロの舞踊団に提供した作品を、学生のレベルを上げ、学生に踊らせるのが一つの夢でした。ゲストの男性ダンサーたちと１ヶ月近いリハーサルをする中で、改めて彼女たちの潜在能力の高さに、私自身が驚かされると同時に、教員の側が学生たちの未来の姿に対して夢を持つことが、いかに大切であるかということを身をもって体験することができたと思います。

この場をお借りしまして、公演にご協力いただきましたたくさんの方々にお礼申し上げます。

（音楽学科教授　島﨑 徹）

大学春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）

５月の爽やかな風が心地よい頃、今年も本学の大切な行事である愛校週間と春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）をまもりました。創立者イライザ・タルカット先生の誕生日である５月22日(火)を含む１週間を愛校週間としてまもり、創立者の思いを確認する時として大切にしております。22日当日は学生、同窓生、教職員、皆で墓前礼拝をまもり、週末である５月26日(土)は愛校バザーを開き、神戸女学院について思いを馳せる１週間でした。

大学では、１年生全員が出席する「春季宗教強調日礼拝」を５月25日(金)に行い、今年度は学長・学院チャプレンの飯 謙先生に『創立者イライザ・タルカット先生（1836-1911）―神戸女学院建学の祈り―』としてご講演いただきました。タルカット家の歴史や育った環境、また出会われた多くの事柄を、飯先生がスライドを交えて詳細に教えてくださいました。来日後の建学の歴史については、学ぶ機会も多く、また記念誌で知ることもできますが、来日前の先生の歩みを故竹中正夫先生の研究の意思を引き継がれた飯先生によって丁寧に教えていただき、大変貴重な学びの機会となりました。

飯先生は締め括りに二つのことを強調されました。１）タルカット先生の歩みは、一本道を進まれたわけではなく、学びの道、教師の道を歩みながらも、親族の看病のために中断するなど、先生に与えられた場は、何度も変わります。しかし先生はその度に与えられた場を大切に、誠実に向き合われました。その姿が大学のミッションステートメントにも掲げられております。２）またタルカット先生は来日後、多くの人と関わり、助け合いつつ女學校（神戸女学院）開校という大事業を成し遂げられました。その背景には、タルカット先生の「隣り人のために」という生き方や行動は、周りの人の善意の行動を力づけ、タルカット先生を支える力となりました。先生はそのような「勇気づける人」であり、学生の皆さんには、神戸女学院で学ぶ者として、向き合った人に対して、ひとつずつ大切に関わってほしいと語られました。

伝説のように語られてきたタルカット先生が、その時代を誠実に生き抜いた一人の女性宣教師として、鮮やかに描き出されたひと時でした。このメッセージが学生一人一人の心に根ざすよう祈るものです。

（チャプレン室）

家庭会大学部会総会報告

個人情報保護のため、
29ページ目から30ページ目は削除しています。

2012年度　大学・大学院入学試験結果概要

●大　学

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	140	176
	総合文化学科	200	238
音楽学部	音楽学科	46	41
人間科学部	心理・行動科学科	90	106
	環境・バイオサイエンス学科	80	94
合　　計		556	655

●大　学〔編入学（3年次）〕

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
音楽学部	音楽学科	1	1

●大学院（修士課程・博士前期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻（英文学コース）	5	2
	英文学専攻（通訳・翻訳コース）	8	4
	社会学専攻	5	0
	比較文化学専攻	5	1
人間科学研究科	人間科学専攻	10	9
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	7
合　　計		40	23

●大学院（博士後期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	1
	比較文化学専攻	2	1
人間科学研究科	人間科学専攻	2	1
合　　計		6	3

2012年度　在籍学生数

（2012年5月1日現在）

●大　学

学年 ＼ 学部・学科（専攻）		文学部			音楽学部	人間科学部			合計
		英文学科	総合文化学科	小計	音楽学科	心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	小計	
1年	12000	176	238	414	41	106	94	200	655
2年	11000	156	217	373	50	103	100	203	626
3年	10000	169	234	403	56	101	84	185	644
4年	09000	191	234	425	51	100	96	196	672
	08000	11	14	25	6	4	2	6	37
	07000	6	4	10	0	5	0	5	15
	06000	3	0	3	0	0	0	0	3
	05000	0	0	0	1	0	0	0	1
合　計		712	941	1653	205	419	376	795	2653

●大学院修士課程・博士前期課程

学年 ＼ 研究科・専攻		文学研究科				人間科学研究科	音楽研究科	合計
		英文学	社会学	比較文化学	小計	人間科学	音楽芸術表現	
1年	1200	6	0	1	7	9	7	23
2年	1100	12	3	2	17	9	6	32
	1000	5	0	3	8	1	1	10
	0900	1	0	2	3	0	0	3
	0800	0			0		0	0
	0700							
	0600							
合　計		24	3	8	35	19	14	68

●博士後期課程

学年 ＼ 研究科・専攻		文学研究科			人間科学研究科	合計
		英文学	比較文化学	小計	人間科学	
1年	1200	1	1	2	1	3
2年	1100	0	0	0	0	0
3年	1000	0	0	0	1	1
	0900	0	1	1	0	1
	0800					
	0700					
	0600					
合　計		1	2	3	2	5

●科目等履修生

学　部	16
大学院	1

●聴講生

学　部	1
大学院	8

2011年度就職決定状況

学　　科	卒業生数	希望者数	決定者数	決定者数／希望者数	大学院進学者数
英　　文	174	145	130	89.7%	4
総　　文	222	191	170	89.0%	2
音　　楽	48	25	20	80.0%	10
心理・行動	90	68	63	92.6%	6
環境・バイオ	79	65	59	90.8%	7
合　　計	613	494	442	89.5%	29

（2012年４月末）

＜主な就職先＞

建設業
㈱錢高組／タマホーム㈱／大和ハウス工業㈱／㈱竹中工務店／三菱電機プラントエンジニアリング㈱

製造業
㈱アッシュ・セー・クレアシオン／ UCC 上島珈琲㈱／㈱オンワード樫山／㈱サンエー・インターナショナル／合名会社神宗／㈱ビッキー／レンゴー㈱／アステラス製薬㈱／㈱アルビオン／㈱イプサ／宇仁繊維㈱／クララランス㈱／コニシ㈱／㈱ファンケル／ロックペイント㈱／エース㈱／㈱サマンサタバサジャパンリミテッド／㈱淀川製鋼所／朝日スチール工業㈱／㈱神崎高級工機製作所／クマリフト㈱／シマブンエンジニアリング㈱／ダイキン工業㈱／㈱三社電機製作所／アオイ電子㈱／富士電機㈱／トヨタ自動車㈱／ハイレックスコーポレーション㈱／㈱キーエンス／ SHO-BI㈱／㈱ナガオカ／㈱ルックウェル

情報通信業
大分朝日放送㈱／㈱ジュピターテレコム／日本放送協会 高松放送局／㈱コナミデジタルエンタテインメント／東芝ソリューション㈱／㈱日本総合研究所／㈱阪技／ヤフー㈱／楽天㈱／まにら新聞

運輸業
全日本空輸㈱／㈱ANA エアサービス東京／ANA 大阪空港㈱／㈱ジェイアール西日本交通サービス／㈱JAL スカイ／㈱JAL スカイ大阪／㈱韓進インターナショナル ジャパン／エティハド航空／キャセイ・パシフィック航空／佐川急便㈱／ヤマト運輸㈱／川西倉庫㈱／㈱住友倉庫

卸売・小売
アズワン㈱／㈱アローズ／㈱いそかわ／岩谷産業㈱／㈱ヴァンドームヤマダ／エネクスフリート㈱／大西賢㈱／㈱キタムラ／近畿中国ペプシコーラ販売㈱／神戸トヨペット㈱／島村楽器㈱／住商メタレックス㈱／住友商事マシネックス㈱／ダイワボウ情報システム㈱／大東楽器㈱／日繊商工㈱／㈱ニッセン／西日本商工㈱／日産プリンス兵庫販売㈱／阪和興業㈱／富士ゼロックス兵庫㈱／扶桑電通㈱／プリモ・ジャパン㈱／㈱ポイント／北陸コカ・コーラボトリング㈱／㈱馬里奈／㈱メガネトップ／㈱ユナイテッドアローズ／リコージャパン㈱／リシュモン　ジャパン㈱／㈱ワールドストアパートナーズ

金融・保険業
㈱三菱東京 UFJ銀行／㈱三井住友銀行／みずほフィナンシャルグループ／りそなホールディングス／㈱関西アーバン銀行／㈱みなと銀行／㈱紀陽銀行／㈱京都銀行／㈱高知銀行／㈱但馬銀行／㈱トマト銀行／㈱南都銀行／㈱北國銀行／㈱ゆうちょ銀行／三井住友信託銀行㈱／大阪信用金庫／兵庫信用金庫／兵庫西農業協同組合（JA 兵庫西）／兵庫六甲農業協同組合（JA 兵庫六甲）／丹波ひかみ農業協同組合（JA 丹波ひかみ）／遠賀信用金庫／吉備信用金庫／京都中央信用金庫／玉島信用金庫／播州信用金庫／中兵庫信用金庫／イオンクレジットサービス㈱／シャープファイナンス㈱／ユーシーカード㈱／野村證券㈱／永和証券㈱／エース証券㈱／岡三証券㈱／日本生命保険㈳／明治安田生命保険㈳／住友生命保険㈳／三井生命保険㈱／アフラック収納サービス㈱／ジブラルタ生命保険㈱／東京海上日動火災保険㈱／㈱損害保険ジャパン／三井住友海上火災保険㈱／富士火災海上保険㈱

不動産業
イオンモール㈱／住友不動産販売㈱／㈱長谷工コミュニティ／㈱福屋工務店／ミサワホーム近畿㈱／三井リハウス関西㈱

飲食店，宿泊業
㈱サイゼリヤ／スターバックス　コーヒー　ジャパン㈱／日本ケンタッキー・フライド・チキン㈱／日本マクドナルド㈱／ホテルニューアワジグループ／㈱ホテルプリンセス京都

医療，福祉
㈱ハマノコンタクト／アースサポート㈱／㈱ベネッセスタイルケア／ロングライフホールディング㈱／社会医療法人 愛仁会／医療法人伯鳳会　赤穂中央病院／医療法人貴生会　和泉中央病院／医療法人社団　サンタクルス／医療法人尚和会　宝塚第一病院

教育，学習支援業
学校法人大手前学園／㈱ウィルウェイ（馬渕教育グループ）／㈱ABC Cooking Studio

サービス業
日本エス・エイチ・エル㈱／㈱エイチ・アイ・エス／㈱ KNT ツーリスト／㈱三洋航空サービス／㈱JTB 関西／㈱JTB 西日本／高見㈱／住友三井オートサービス㈱／㈱トヨタレンタリース大阪／㈱アコーディア・ゴルフ／セントラルスポーツ㈱／㈱宝塚舞台／四季㈱（劇団四季）／㈱ユー・エス・ジェイ

公務
防衛省　海上自衛隊／神戸市　消防局／守口市役所

2012年度　キャリア支援プログラム(予定)

【3年生対象】

2012年

4/20(金) インターンシップガイダンス：基礎編
4/27(金) インターンシップガイダンス：就職ナビ活用編
5/11(金) 就職ガイダンス①
5/18(金) 就職ガイダンス②
5/25(金) 就職ガイダンス③
6/ 1(金) 就職試験対策セミナー
6/ 8(金) 就職ガイダンス④
6/15(金) 自己分析講座①
6/16(土) 第1回SPI模擬試験
6/22(金) 自己分析講座②
6/29(金) 職種研究講座①
7/ 6(金) 職種研究講座②
7/13(金) 職種研究講座③
7/20(金) 就活マナー講座
8/ 3(金)、6(月)～9(木) SPI集中対策講座 ＊有料
9/18(火)～20(木) 自己分析・文章力アップ講座 ＊有料
9/21(金) 第2回SPI模擬試験　＊有料
9/25(火) 業界研究講座①
9/28(金) 業界研究講座②
10/ 5(金) 業界研究講座③
10/19(金) 業界研究講座④
11/ 2(金) 企業研究講座①
11/ 9(金) 企業研究講座②
11/16(金) 力のある中小・中堅企業の探し方
同　企業研究講座③：OGが活躍する企業について
11/17(土) SPI数理対策講座　＊有料
11/30(金) 就職ガイダンス：就活スタート編
12/ 1(土) 第3回SPI模擬試験　＊有料
12/ 7(金) エントリーシート対策講座：基礎編
12/14(金) 就活スタートアップセミナー①
12/15(土) 個別マナー対策講座　＊有料
12/21(金) 就活スタートアップセミナー②
12/22(土) エントリーシート対策講座　＊有料

上記以外に、企業採用担当者による「業界研究セミナー」を開催(日程未定)

2013年

1/11(金) エントリーシート対策講座：完成編
1/21(月)～25(金) 模擬面接対策講座　＊有料
1/25(金) 就職ガイダンス：直前対策編
2月　学内企業セミナー、学内合同企業セミナーを開催（2月前半、2月中旬）

その他以下を実施予定

KCキャリア塾（8月）
4年生による就職活動体験報告会（11月～12月）
4年生のキャリアサポーターによるミニセミナー（12月～1月）

【4年生対象】

4/25(水) テーマ別セミナー①
5/25(金) 面接対策実践講座
5～6月　4年生対象学内企業セミナー

以降テーマ別セミナーを月1回程度実施予定

【2年生対象】

10月頃　進路ガイダンス

【1年生対象】

7/ 6(金) キャリアガイダンス①
10月頃　キャリアガイダンス②

【学年不問】

7/27(金) エアラインセミナー
10/20(土) OGによる仕事研究セミナー①
12/ 8(土) OGによる仕事研究セミナー②
11月頃　留学と就職についての説明会

・秘書技能検定講座2級・準1級　春期・秋期2回実施
・TOEIC対策講座　春期・夏期集中講座
・公務員受験対策講座　春期・夏期集中講座

2011年度　大学図書館報告

1．統計

• 蔵書数

	2011年度受入	2011年度末現在
和　書	3,943冊	244,775冊
洋　書	1,067冊	166,621冊
合　計	5,010冊	411,396冊
ＡＶ資料	3点	3,850点

• 2011年度貸出状況

学　生	教職員	外来者
23,911冊	2,859冊	1,719冊

• 2011年度相互利用

	文献複写	図書貸借	閲覧	照会
依頼	936件	82件	24件	17件
受付	606件	49件	12件	8件

2．受入図書

• 教育資料費による購入資料

『The Emergence of the World Tour』ほか　計６タイトル

• 寄贈図書

『セノオ楽譜』87冊ほか　計439冊

• 寄贈視聴覚資料　計１点

3．その他

• クラス別ガイダンス　41回実施

（大学図書館課長）

＜WHO承認活動「運動器の10年」障害者日本縦断駅伝完結編に参加して＞

３kmがくれた自信

文学部 総合文化学科　３年生

５月20日、障害者日本縦断駅伝の兵庫県区間に参加しました。このイベントは、運動器に障害をもつ方々が自転車や車椅子でタスキをつなぎながら全国を縦断する企画です。４月に金山先生からお誘いを受けた時には、自信がありませんでしたが「滅多にない機会だから」と参加を決めました。足に先天性障害のある私は、小学生の時にオーダーした、前二輪・後一輪のオリジナル三輪自転車で、人生初の３kmに挑みました。自転車も小学生の時に少し乗っただけでしたので、練習は体力づくりから始めました。迎えた当日のコースでは、緩やかな上り坂に苦しみました。最初は順調でしたが１kmを超えたあたりから、左足が疲れて思うように動かなくなり、残りの距離が遠く感じました。それでも沿道の大声援は、“止まっては進む”を繰り返す私に、勇気をくれました。足は限界を超えていましたが、なんとかゴールテープを切ることができました。障害は、私から多くのものを奪いました。けれども、それがきっかけで参加した今回の駅伝は「自転車で３km走れた！」という自信を与えてくれました。何かを頑張りぬくことは、今までの自分を超えることです。これからも様々なことに挑みたいです。そして、支えてくださった多くの人に「ありがとう」を伝えたいです。

2010年の日本縦断駅伝がご縁で、膝関節を骨折した際の主治医の先生と再会しました。退院当時「好きなことは何でもやっていいよ」と伝えてくれた先生の言葉を頼りに、時間はかかりましたが、目標だった“体育の教師”になりました。今回の縦断駅伝では、サポートドクターを担当された先生、担当授業で出会えた彼女と一緒にタスキをつなぐ機会に恵まれました。安全が守られ、たくさんの感動をもらって過ごせましたこと、この企画に関わった全ての方々に心から感謝しております。

（体育研究室教授　金山 千広）

汗だくで走った彼女のゴール
（伴走は彼女の従兄弟の方と、金山〔右〕）

＜受入れ留学生報告＞

Before coming to Japan

ワイオミング大学交換留学生

日本へ来る前は日本語を話すことがこわかったです。アメリカでは日本語を話す機会があまりありませんでした。アメリカの日本語の先生は日本語をきちんと教えてくれませんでした。何回も日本語を諦めたくなりました。でも、いつも努力しました。

難しい日本語の勉強を２年間つづけた後、日本へ行く決心をしました。ずっと日本へ行きたかったです。ですから、留学生として日本へ行くことにしました。実は１回生の時、神戸女学院大学の留学生に会ったのです。彼女の名前はなおこさんです。彼女はいつも神戸女学院大学での生活を話してくれました。ですから、神戸女学院大学へいきたいと思うようになりました。

私が初めて日本、そして神戸女学院大学に来たのは2011年９月14日でした。それは旅をし始めました。始めはカルチャーショックがありましたが、悪くなかったです。日本の生活は楽しくて、面白いと思いました。でも、ホームシックになりました。アメリカへ帰りたかったです。しかし、今は日本に居残ってよかったと思います。

神戸女学院大学に来たのは、素敵な経験でした。たくさんの友達に会いました。その上日本のいろいろな所を旅行し、すばらしい人たちにも会えました。神戸女学院大学へ来たことで、私の日本語はとても上達しました。今日本で日本語を話す時、もう怖くありません。今はいつも日本語を話したいです。

一生忘られない神戸女学院での10ヶ月

梨花女子大学交換留学生

船に乗れば２時間半ぐらいかかって日本に着くことができる釜山という都市の近くに住んでおり、小さい頃から何回も旅行で日本に来ました。旅行で出会った日本という国は魅力的な場所で、いつからか私の心の中には一度住んでみたい国に変わりました。ドキドキしながらやっと、2011年９月、日本に来ました。

初めて出会った神戸女学院は自然に囲まれていて韓国の大学とはぜんぜん違う雰囲気でした。校舎を見ることだけで伝統や歴史を感じることができました。「こんなキレイな学校で１年間生活するようになってうれしい！」と思ったその日からもう８ヶ月が過ぎて、どのように生活したのかわからないほど楽しい大学生活をしました。

私の留学生活について少し記述すると、最初の１ヶ月の間、日本で初めての学校生活、その中で授業はとても大変でした。友達と簡単な会話ぐらいしかできなかった私が１時間30分の間すべて日本語で授業を取るなんて！授業の内容が理解できなかったのも大変でしたが、何よりも自分の実力がこのぐらいしかないんだなと思うと辛かったです。しかし、先生方がたくさん配慮くださったり友達のおかげで１ヶ月ほど後には、100％ではもちろんないですが、ほとんど理解できるようになりました。「言語は現地で学ぶのが一番」っていうことを実感した瞬間でした。最初は大変だったが慣れていくにつれて授業を楽しむことができました。大学の周りを歩き回って植物を観察する授業や、日本文化を体験する授業などが一番印象的でした。他にも、寮生活、大学祭、クリスマス礼拝などは貴重な経験でした。そして、大阪、神戸、京都などに遊びに行ったりバディが住んでいる町の祭りに参加したり、寒い冬の夜ぶるぶる震えながら見た神戸ルミナリエも忘れられないでしょう。このすべては旅行者ではなく、留学生であったからこそ可能で、今後の残りの留学期間中も、より多くの所に行って、より多くのことを経験したいと思います。短い留学生活だったのでもっと熱心に何かをなしとげたいと思ったと思います。

もう帰国が目の前ですが、残りの時間もっと頑張って日本で、そして神戸女学院でもっとたくさんの思い出を作りたいと思います。

皆様方に支えられた留学生活

広東外語外貿大学交換留学生

大学入学以来の日本留学の夢は、2011年９月14日に神戸女学院大学のキャンパスに足を踏み入れることで実現しました。初めての外国生活で、言葉と生活に不安がありましたが、大学の寮に案内され、冷蔵庫を開けると、寮の先生とバディの皆さんが準備してくださった食べ物、飲み物があり、そのお心遣いに胸が一杯になりました。

飯田祐子先生の日本文学特殊講義を受講し、研究の仕方について勉強させていただきました。また、濱下昌宏先生、高橋雅人先生、孟 真理先生、宮田道昭先生をはじめ多くの先生方の授業を受講し、物の見方を学ぶとともに、問題意識を持つことができるようになりました。先生方に、衷心よりお礼申し上げます。

大学院生の研究成果の発表を聞き、また、自習室でいつも研究に専念する皆さんの姿を見て、良い影響を受けることができました。バディの皆さん、寮の友達がいつも親切に日本語を教えてくださった結果、留学生スピーチ大会にも参加しました。本当に心から感謝します。

国際交流センター、寮、事務室などの職員の方、バディの皆さんのご配慮でいろいろな場所を案内していただき、日本の文化伝統を知ることができました。そして、英語がぺらぺらで、国際ボランティアとして活躍している愛実、中国語に関する仕事を希望しているまりこ、ご両親と一緒に留学生の世話をしてくれた泰子、中国の店の手伝いをするために中国語を勉強し始めた美優、公務員になるために勉強しているやよい、またいつも助けてくれたさゆみと実久に心からお礼申し上げます。

この一年の留学生活は私にとって数年の留学体験に相当すると思っています。今後は皆様のご好意を中日交流に活かす努力をいたします。最後に、神戸女学院大学の皆様に、改めて感謝の意を申し上げます。

＜留学報告＞
ミリアム大学

かけがえのない時間

文学部 英文学科 ４年生

私は約５ヶ月の間、フィリピンのマニラ近郊にあるミリアム大学に留学させていただきました。フィリピンはタガログ語中心で日常会話をしますが、授業の大半は英語で進められます。留学生は韓国、オーストラリア、ミャンマーから数名と日本人は私たち神戸女学院からの２名のみでした。それに対し初めのうちは心細さがありましたが、留学生が珍しいということもあり、多くの方が気さくで親切に接してくれました。授業は「ジェンダー」・「ヒューマニティー」・「ソーシャルワーク」の３科目を履修し、複数の学部を跨いで勉強をしました。というのも、本来自分の学部を越えて他学部の科目を履修することは許されていませんが、留学生ということで特別に許可をいただきました。ミリアム大学の方々の手厚いサポートのお蔭で、不安やストレスなくとても良い環境で勉学に励むことができました。

一方で大学の敷地を出ると全く別の世界を目の当たりにすることになります。買い物を終えたお客さんに物を請う子どもたちや、一日中辺りに寝そべる人、交差点の信号待ちで止まる車に集まる物売り。多少のショックもありましたが、その気持ちはやがて自分の原動力となり、何をすることによってこの人たちの力になれるのか、より幸せになれるのか深く考えるきっかけとなりました。自分自身のために決めた留学でしたが、人のために考えて動く喜びを味わうことができました。今回の留学を支えてくださった方々に感謝いたします。

寮の友達と

＜中期英語留学報告＞
チャタム大学

アメリカ留学を終えて

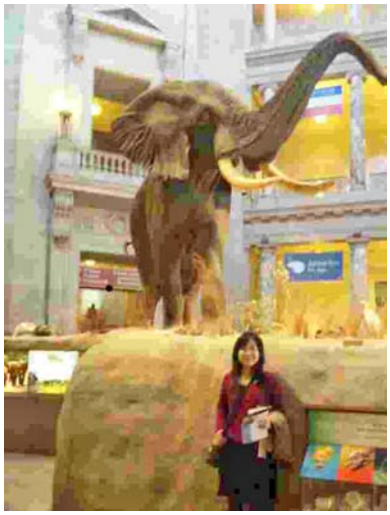
文学部 英文学科 4年生

アメリカのペンシルベニア州ピッツバーグにあるチャタム大学で過ごした約7ヶ月間は、あっという間に過ぎて行きました。授業はすべて英語、気候や風土も日本とは大きく異なり、人々の考え方も違います。そして異国の地からきたルームメイトたちとの生活は、日々発見の連続でした。

学内のイベントにも多数参加し、異国の料理を食べるイベントでは、神戸女学院の仲間同士でお味噌汁、ちらし寿司、天ぷらを作って、チャタムの学生たちにふるまいました。また、友人たちとピッツバーグ市内を散策したり、ワシントンD.C.、フロリダ、ニューヨークにも旅行に行ってきました。

この留学を通じて大切だと感じたのは「積極的になること」「柔軟になること」です。アメリカでは多種多様な国籍や人種、民族の人たちが混じり合って暮らす「人種の坩堝」です。一人一人が異なる習慣や価値観を持つことは普通です。私が当たり前と思っていることも、その人にとっては当たり前ではないこともあります。それで私が納得できない場合は、話し合いが必要になってきます。アメリカでは自分の考えを持ち、主張することが重要です。逆に何も言わなければ相手はわかってはくれません。また、相手の主張をしっかり聞くという寛容さも必要です。難しかったですが、常に実行できるよう努力してきたつもりです。

最後に、お力添えをいただいたすべての方々に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



ワシントンD.C.のスミソニアン博物館にて

＜中期海外研修報告＞
クイーンズランド大学

クイーンズランド大学に留学して

文学部 英文学科 3年生

私はオーストラリアにあるクイーンズランド大学に留学させていただきました。最初の6ヶ月間は大学にある語学学校に通いました。世界各国から幅広い世代の人が来ているため、異なる言語、文化、考え方に出会うことができ、価値観を広げることができました。授業中に、グループでディスカッションをする機会がよくあるのですが、自分の国について話すことが多く、いかに自分が日本について知らないかを痛感させられました。授業内の活動を通してクラスメートと仲良くなることができ、かけがえのない友達に出会うことができました。また、ホストファミリーともかけがえのない時間を過ごすことができました。子ども3人がいる家庭で、明るく楽しく過ごすことができ、いつも本当の家族のように感じていました。一緒に買い物に行ったり、ビーチに行ったり、旅行したり、BBQをしたりと思い出はつきません。

最後の1ヶ月間はRiverlifeというカヤック、ロッククライミングなどのアクティビティ、結婚式、アボリジニダンスショーなどを提供している会社で働かせていただきました。カヤックの説明というアクティビティ参加者の命にかかわることを任せてくださり、また会社の顔となるような仕事である電話対応や受付での仕事を任せてくださったことに感謝してもしきれません。

留学を通して英語力が伸びただけでなく、人としても成長できたように思います。今後も学んだことを活かし、日々成長していきたいです。

CityCat（フェリー）から見るブリスベンの街並み

カルフォルニア大学　アーバイン校

UCI での留学

文学部 英文学科　4 年生

私は去年の９月から３月下旬までアメリカのカリフォルニア大学アーバイン校に留学していました。UCI はとても大きな大学でトルコ、スペイン、韓国、サウジアラビアなど色々な国の留学生と一緒に勉強することができました。また、カリフォルニアは治安がよく気候も常に暖かくてとてもいい環境でした。授業は毎日あり、宿題も多く大変だったのですが、放課後などに友達とお話をしたりビーチに行ったりと楽しい時間も多くありました。UCI の先生方は本当に学生想いで、テスト前などには放課後に、スターバックスで勉強会を開いてくれました。クラスも少人数で発言する場が常に設けられており、留学前と留学後では確かな英語力の伸びを感じることができました。

この留学で英語力はもちろん、色々なことを学び、考えさせられました。一番驚いたことは、海外からの日本の評価です。授業で母国の話になったとき、クラスのみんなが「日本は全世界のヒーローだ。」と言ってくれました。また、クラスのみんなが東日本大震災のことを知っており、半分以上のクラスメートが母国で募金をしたと語ってくれました。本当に嬉しくて、心が温まった瞬間でした。

今回の留学は私にとって、とても価値あるものになりました。７ヶ月間の日々と、UCI で出会った友達は一生の宝物です。留学に行かせてくれた両親、そして神戸女学院の国際交流センターの皆さまに感謝しています。

クラスメート

＜語学研修報告＞

ヨーク大学

ヨーク大学語学研修に行って

文学部 英文学科　3 年生

私は１ヶ月間イギリスのヨーク大学に語学研修へ行きました。ヨークという町はとても穏やかで歴史的な建物がたくさんあるとてもきれいな町でした。私はホームステイをしながら、大学に歩いて通っていました。私のホストファミリーは年配の夫婦と犬が１匹いました。初めて対面した時は緊張しましたが、とても温かく迎えてくれて、学校から帰ったらいつも家にいて、一緒にテレビを見たり、会話をしたりしました。私が聞き取れない時は、ゆっくり話してくれたり、私の英語の文章がおかしい時は訂正してくれたりして、とてもためになりました。大学の先生方はとてもフレンドリーな方が多く、授業ではグループで活動するたくさんのプロジェクトがありました。どのプロジェクトもイギリスの文化や歴史を知ることのできるとても楽しいプロジェクトでしたが、私が最も印象に残っているものは、ビデオプロジェクトです。街中でビデオを撮り、一つの番組を完成させるというものだったのですが、日本ではなかなか経験できないとても思い出に残る授業でした。課外活動では、少し離れた町にいったり、週末は友達とロンドンに行ったり、イギリスの色んな場所へ行くことができました。

私はこの研修で、授業やホームステイを通してたくさんのイギリスの文化を知ることができ、英語を学ぶとても良い経験になったと思います。先生方や友達と過ごした時間は一生忘れられない大切なものになりました。

お別れの際、先生方とクラスで撮った集合写真

広東外語外貿大学

広東外語外貿大学での27日間

人間科学部 心理・行動科学科 3年生

私は2012年2月26日から3月23日の間、広東外語外貿大学に短期語学研修生として滞在させていただきました。学内では初の試みで、ほとんど情報がないままの研修だったため、期待と不安で胸がいっぱいでした。

研修中の平日は、午前中に中国語の授業を受け、午後は自由時間だったため買い物をしたり、様々な国の友達と遊んだりと、とても充実したものでした。クラスや寮にはアジアの人だけではなく、アフリカや欧米から来ている留学生も多く、とても良い環境だったと思います。土日はどちらか一日は勉強する日、もう一日は遊ぶ日、と決めていました。図書館はとても広く自習スペースもたくさんあったため、自習をするには最適の環境でした。また、一歩学校の門を出ると洋服屋や食べ物屋なども揃っており、勉強の合間にお菓子を買いに行ったり、洋服を見に行ったりと、とても思い出に残る日々でした。バス停も学校の近くにあり、様々な場所へ簡単に行けたこともとてもよかったと思います。

現地での生活は本当に一日一日が濃く、あっという間の27日間でした。当初聞いていた情報とは違い、戸惑った場面も多々ありましたが、それも異文化を学ぶ良い経験だったと感じています。研修中に出会った友達とは今でも連絡を取り合っています。最後に、受け入れ先の広東外語外貿大学の方々、プログラムを考えてくださった神戸女学院大学の方々、研修先で出会った全ての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。

研修中にできた中国人の友達（日本語学科）と、朝食に飲茶を食べに

クイーンズランド大学

語学研修に参加して

文学部 総合文化学科 3年生

私は2012年の2月中旬から3月末までの5週間を、オーストラリアのクイーンズランド大学で実施される語学研修に参加しました。

留学生のほとんどがクイーンズランド大学内にあるICTE-UQという施設で英語の勉強を行いました。授業は英語のクラス別に分けられ、授業が行われました。私のクラスは日本人のほかに、韓国、中国、コロンビア、クウェートなどから来たメンバーで構成されていました。休み時間や放課後に彼らと関わることで、様々な国の文化を知ることができ、英語の学習以外にも、とても貴重な体験ができました。メインとは別に、選択できる授業もあり、私はビジネスで使う専門的な英語を学ぶクラスと英語の発音改善を目指すクラスを受講しました。すべての授業に共通して言えることですが、授業内にどんどん発言をしていくことが求められるスタイルが多かったです。日本の座学だけの授業にしか経験したことのない私にとって、このスタイルに慣れるまでに時間がかかりました。

オーストラリアでの生活は一日一日が本当に充実しており、日本ではできない貴重な体験ができました。そう感じることができるのも、右も左もわからぬ中支えてくださった、大学スタッフの方々、友人、ホストファミリー、家族の支えがあったからです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。最後になりましたが、ここで感謝の気持ちを伝えたいと思います。

ブリスベンの街並み

＜私の研究＞

熱血巨人 Franz Liszt

岡田　　将

おそらくピアノを弾く人なら、誰もが一度は彼の作品に触れるであろう作曲家。それもそのはず、彼は今日の演奏会―リサイタルという形、そしてピアノという楽器の最終形に導いた第一人者、また、ピアノを弾くという技術面においても革新的なものを確立した人、文学と音楽を結びつけた人、初見、即興の天才、義援活動、教育活動、と言い出したらきりがない。音楽界のみならず、多大な功績を後世に残した人物だからです。ピアノの魔術師と言われたリストが、実際にピアノを習ったのは、幼少のころのウィーンでの３年間だけで、ほとんどが独学なのだから驚き。そしてなんと彼が85年の生涯で書き上げた作品の数は、なんと1400曲余り、中には、オーケストラ楽曲、歌曲、オルガン作品、オリジナル作品やほかの作曲家の作品の編曲などが含まれます。即興の天才ということもあってか、多くの作品が二度三度と改訂されてはいますが、膨大な作曲数です。そんな彼は度々作曲家の仲間内で、他の作曲者の新作を初見で演奏することがあったそうですが、彼が一度弾き終えた後に「彼が自分の作品をこんなにも美しく、完璧に演奏してくれるのは最初で最後だ。」と皮肉を言われることも。同じ作品を二度目に演奏する時には、リストにとってあまりにも簡単すぎて自分で即興で編曲を加えて演奏するからなのだそうです。

さて、彼のスキャンダラスで波乱に満ちた長い人生を追ってみると、非常に多面的であって、最終的には聖職者にまでなりますが、彼の生涯の中で愛する人と一緒に旅して出会った風景や文学、絵画などを書き綴った作品集「巡礼の年」のなかに彼の本当の姿があるように思います。２足どころか12足のわらじを履いていた隣人を愛する精神をモットーに生きた彼の人生に、私は強く共感しています。

（音楽学科専任講師）

身近な化学物質を正しく理解する

横田　弘文

人は化学物質の恩恵を受けて豊かで快適な生活を行っていますが、中には人体や環境に対し有害な影響を示すものがあります。私は化学物質の環境生物に対する有害性を研究する生態毒性学を専門としています。

水環境中に放出される化学物質のうち、近年特に問題視されているのが医薬品です。服用した医薬品はし尿として排泄され、下水処理場で処理されます。しかし、医薬品の中には下水処理過程で完全に処理されずに河川等に流出し、野生生物に悪影響を及ぼす恐れのあることが明らかとなってきました。医薬品は人に対する安全性は徹底的に調べられますが、環境中に放出された後、野生生物に対してどのような影響を及ぼすのかという視点は全く欠けていたのです。そのため、医薬品の生態毒性を評価するためには、どういった試験方法が必要なのかが議論されている状況です。

そこで、私はメダカを用いて医薬品の毒性試験法を開発しています。メダカは人と同じ脊椎動物ですので、医薬品の中には副作用のメカニズムがメダカにも当てはまるものがあります。現在私が着目している解熱鎮痛薬は、これまでの研究からメダカの排卵を阻害し、繁殖に対して重篤な影響を及ぼす恐れのあることが明らかになりました。しかし、毒性が発現する濃度は、河川水中に含まれている濃度に比べて数千倍から数万倍も高く、実際の環境下で影響が生じる可能性は今のところ低いといえます。講義でこの話を学生にすると、普段何気なく使っている頭痛薬が野生生物に悪影響を与え得ることに驚きますが、実際の環境中では起こりそうにないことを知って安堵の表情を見せます。このように身近な化学物質の負の側面を正確に伝えることにより、学生のリスクリテラシーを高める教育をしていきたいと考えています。

（環境・バイオサイエンス学科准教授）

＜課外活動紹介＞

［クラブ］ I.S.A.（国際学生協会）について

部　長

私たち日本国際学生協会は International Student Association という全国の他大学との世界平和の実現を目指した国際団体です。日本・韓国に支部があります。日本は東京、神戸、大阪、京都、九州、岡山に約500名の会員が属しています。私たち神戸女学院大学は神戸支部に属しており、毎週金曜日に甲南大学にて関西学院大学・神戸松蔭女子学院大学・神戸大学・甲南大学の学生たちと集まって、国際問題など様々な分野においてディスカッションなどを行っています。また、長期休暇中は海外交流プログラムや国際協同プロジェクトの参加者を全支部から集めインドネシア・モンゴル・韓国・フィリピン・ヨーロッパ諸国の現地の学生と会議や観光などをして交流をはかります。単なる旅行では味わえない学生同士の学生による国際交流。二国間で文化紹介などをしたり、お互いの意見を英語で共有したりと真の交流ができます。国際協同プロジェクトは NGO 団体 LOOB と一緒に合同で現地の子どもたちとふれあい、食育活動など行います。年に２回これらのプログラムの報告会を神戸にて行い、全会員を募って情報の共有を毎年しています。I.S.A.の醍醐味はプログラムの参加者になれるだけでなく、運営側にもなれるということです。受け身になりがちな大学生活になにか物足りなさを感じる人は、ぜひぜひ入部お待ちしています。

全国合宿（All Spring Meeting）

［クラブ］ K.C.Vivace

部　長

私たちフットサル部 K.C.Vivace は、毎週土曜日に約４時間、第三体育館で活動しています。部員は各学年10人前後です。数人の関西学院大学の男子学生に指導をしてもらっていますが、あくまで女子だけで戦えるチームを目指して練習に励んでいます。自分たちのペースで試合にも参加し、様々な相手と対戦しながら自分たちの課題を見つけて練習に活かしています。なかなかいい結果を残すことは難しいですが、昨年は一度市内の大会で優勝し、念願の神戸女学院大学のクローバー賞をいただくことができました！また年に２回、２泊３日で合宿も行っています。普段は練習が週１回のため上達するのに時間がかかりますが、合宿の時はみっちり練習できるため、上達したことがすぐに自分で実感できるのがとても嬉しいです。

しかし実は私自身を含め、入部当時ほとんどの部員が未経験者でした。今まで運動部になど入ったことがないという部員さえいますが、そんな私たちを先輩方はあたたかく迎え入れてくださいました。先輩方の仲の良い和やかな雰囲気にひかれて、入部を決めたという部員も少なくありません。そうやって引き継がれてきたこのフットサル部では、今も先輩後輩の上下関係があまりなく、いい意味でとにかく仲が良いのが私たちの自慢です。そんな K.C. Vivace の良さをこれからも受け継ぎながら、勝てるチームを作っていきたいと思います。

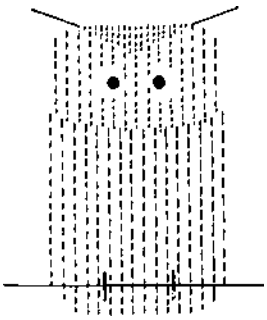
３月に行われた試合にて

中高部報告

2012年度中学部入試結果報告

募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	277	268	153	142

日程：2012年１月14日（土）・16日（月）



中高部図書室報告

Ⅰ．2011年度の主なできごと

（１）蔵書点検（2011.7.12～25）

Ⅱ．a 2011年度増加図書冊数（資産化図書）

	購入	寄贈	移管	合計
和漢書	10	0	0	10
洋書	0	0	0	0
合計	10	0	0	10

b 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減（資産化図書）

2011年度　増加数	10
2011年度　除籍数	△ 165
蔵　書　数	10,821

c 消耗図書費の蔵書冊数の増減

2011年度　増加数	2,485
2011年度　除籍数	△1,362
蔵　書　数	61,581

Ⅲ．2011年度貸し出し冊数

Ｊ１	6,813
Ｊ２	2,839
Ｊ３	2,356
Ｓ１	2,691
Ｓ２	1,218
Ｓ３	442
教職員	415
大学生・大学院生	21
その他	0
合計	16,795

貸出日数　202日
１日平均 83.1冊

（司書教諭）

2012年度中高部受け入れ留学生

昨年度は、震災の影響で受け入れ留学生は残念ながらひとりもいませんでしたが、今年度は、S１に１名、S２に１名を受け入れています。

S１の１名は、オーストラリアの姉妹校 Methodist Ladies' College（MLC）の10年生です。１学期の間、中高部生徒の３家庭にお世話になります。シンガポール人で、９年生から MLC に通いはじめました。日本語や日本文化にとても興味があり、来日を楽しみにしていましたが、日本での生活は想像以上に楽しいそうです。

S２の１名は、AFS 生です。スウェーデンのストックホルムから来ました。小さい時に日本の文化に触れ、ずっと興味があったそうです。野外活動が好きで、春の遠足も楽しみました。文学部事務室の門谷さんのご家庭がホストです。来年２月はじめまで通学するので、秋には、S２と一緒に修学旅行にいくのを楽しみにしています。

ふたりは、バザーや体育祭などの行事を体験し、茶道部やバドミントン部で、友達を増やしています。

（中高部英語科教諭留学生係）

オーストラリア　Methodist Ladies College 生

４月から７月　S１C 在籍

皆さんこんにちは！オーストラリアの姉妹校からの留学生です！でも実はシンガポール人です！日本が大好きだから、日本へ来ました！毎日皆さんと一緒に学校で勉強することが楽しくて面白いです。日本にいる間皆さんの友達になりたいのでぜひ私に話しかけてください！だけど私の下手な日本語と間違いを許してください。

スウェーデン　AFS 生

４月から2013年２月　S２C 在籍

皆さん、はじめまして！スウェーデンからの留学生です。私は AFS で日本に来ました。来年の２月まで勉強します。日本にいるあいだ、たくさんの人に会えるのがとても楽しみです。日本に来ていちばん面白かったことは、電車や学校などいろいろなところで寝る人が多いことです。もっとおもしろいことを見つけたいです。よろしくおねがいします。

2011年度学校評価について

個人情報保護のため、
44ページ目から45ページ目は削除しています。

中高部 P.T.A. 報告

個人情報保護のため、
46ページ目から47ページ目は削除しています。

Ｊ１デイキャンプ報告

今年度も４月２日、３日にＪ１デイキャンプが行われました。正確に言うと、行われるはずでした。

初日の朝11時半。緊張気味の新Ｊ１とこの日のために準備を重ねた上級生スタッフ一同とが講堂に集合して開会式が行われた後、気持ちよく晴れわたったグラウンドで、各班に分かれて昼食をとりました。明るく和やかな雰囲気のまま午後のオリエンテーリングへ。嬉々として校内を歩き回るＪ１の姿に、スタッフ一同胸を撫で下ろしました。そして２日目。昨日とうって変わって午後から大雨になるという不穏な天気予報に不安を抱きつつも何とか予定通りにスタート。午前のプログラムは、Ｊ１一人一人が中高６年間の抱負を描く「ジグソーパズル」作成です。ところが、パズル完成を目前にした午前11時前、阪神地域に暴風警報が発令され、大慌てでＪ１を帰宅させるという事態に陥りました。このままデイキャンプを終えられるはずもなく、相談の結果、２日目午後に予定されていたプログラムは時間を短縮して入学式後に、さらに後日のロングホームルームの時間に、分散して行うことになりました。

前代未聞の３日以上にわたるデイキャンプ。特に責任者であったＳ３スタッフの葛藤は相当なものだったことでしょう。しかし一方で、皆が文字通り「心を尽くした」日々であったことも事実。このデイキャンプが新Ｊ１の心にも深く刻まれることを願っています。

（ディレクター）

春の修養会報告　大阪水上隣保館訪問
～４月21日(土)　交流と昼ごはん大会～

またしても、天気予報を覆し、例年のごとく晴天となり、和やかな一日となった。子羊保育園の子どもたち27名、先生方８名、本校からは、Ｊ１（１名）、Ｊ２（６名）、Ｊ３（７名）、Ｓ１（21名）、Ｓ２（16名）、Ｓ３（13名）の計64名、OGが２名、引率教員２名の総勢103名の参加となり、大いに盛り上がった。９時に大阪駅を出発し、10時から礼拝堂で宗教部生徒の司会で礼拝を守り、その後、当日の諸注意と詳細な打ち合わせを行い、11時に保育園へ子どもたちと出会いに行く。保育園の園庭を中心にして活動開始。本校生が持参した、心のこもった手作り弁当を子羊保育園の子どもたちに、そして教員が用意した焼肉、キムチ３種は子羊保育園の先生方に食べていただいた。本校生は、２～３人のグループに分かれて、皆、精一杯、心を使って子どもたちと向き合っていた。保育園へ子どもたちを送り、礼拝堂で宗教部生徒の司会で閉会礼拝を守った。そして一日の総括を行った後、皆、精一杯動いた心地よい疲れをおぼえつつ、爽やかな気持ちで帰路に着いた。今回も参加希望者が多かったため、昨年に続き、大阪水上隣保館訪問史上２度目の抽選会を行い、多くの応募者から64名にしぼり、少なからぬ生徒には参加をあきらめてもらうこととなり非常に残念であった。本校生の頑張りが嬉しく、教員にとっても、充実した一日であった。今年も現役生が頑張った。参加した君が、この行事の歴史を繋いだんだよ。皆に、有り難う。

（中高部教諭）

Ｊ１　春の遠足

Ｊ１の春の遠足は欠席者もなく、天候に恵まれたこともあり親睦を深めるよい機会となりました。ほぼ予定通りに集合場所である新神戸駅を出発し、新緑の眩しい登山路を歩き始めると、教室ではまだ緊張のみえる生徒たちが本当に楽しそうに話し始めました。休憩場所となった市ヶ原の河原では水遊びをする者、おやつを食べながら談笑する者がおり、新しい出会いを喜ぶ様子を見ることができました。

昼食前にはタルカット先生の墓前に集い、共に礼拝を守りました。タルカット先生が愛された讃美歌「この世はみな神の世界」を歌い、御言葉とメッセージに耳を傾けた後は、クラスの代表者が献花をし、黙祷を合わせました。

再度公園で昼食と自由時間を楽しみ、クラスごとに記念撮影をして下山しました。諏訪山公園からは神港学園の前を通り、「神戸女学院発祥の地」の碑を確認して駅に向かい、解散いたしました。

Ｊ１の生徒にとって、創立者の墓前において礼拝を守ることや山本通りの校舎跡を訪れることには、やはり大きな意味があると感じています。タルカット先生やダッドレー先生をはじめとする歴代宣教師の貴い決断と献身的なお働き、そしてアメリカンボードによる祈りと支援が学院の礎にあることをこれからの学院生活を通して共に学んでゆきたいと願っています。

今年の春の遠足も新入生にとっては最初の神戸女学院の歴史に触れる機会であると同時に、新しい仲間との出会いを喜ぶ機会になりました。

（Ｊ１Ａ担任）

Ｊ２春の遠足

４月27日、絶好の遠足日和の中、春の遠足が行われました。

Ｊ２は朝９時に阪急六甲駅北側の護国神社に集合、時間に遅れる生徒もおらず、順調に春の一日が始まりました。Ｃ組担任によるパワフルな体操を終え、９時15分にいざ出発。徳川道を通り、途中二度の休憩を挟んで、杣谷峠に午前11時10分に到着。この日の「山登り」は事実上ここで終了し、この後は舗装道を通って目的地である六甲山牧場に向かいました。牧場には11時50分に到着、クラスごとに記念撮影をした後、１時間余りの自由時間をとりました。可愛い羊の群れに歓声を上げつつ昼食をとった後、登山中に苦しくなると「ソフトクリーム……」とつぶやいて元気を取り戻す人も多かった、牧場名物チーズソフトクリームに舌鼓を打ったり、お土産を探したりと、生徒たちは思い思いに楽しい時間を過ごしたようです。午後１時過ぎに再集合し、帰路につきました。往路とほぼ同じ舗装道を通って摩耶ロープウェイの山上駅に午後２時に到着し、クラスごとに順次ロープウェイに乗車、その後ケーブルに乗り継いで、午後３時過ぎに摩耶ケーブル下にて解散しました。

インフルエンザ等の流行で欠席者が11名出たのが心残りではありますが、抜けるような青空の下で交流を深められた気持ちのよい一日となりました。

（Ｊ２Ａ担任）

Ｊ３　春の遠足

４月27日（金）雨天のため１週間の延期となりましたが、当日は爽やかな遠足日和となりました。9:20に鈴蘭台に集合し、礼拝後出発。菊水山、鍋蓋山を経て再度山公園で昼食、帰りは太子道を経て14:40諏訪山公園で解散という行程で、市街地や、車道を通ることもほとんどなく、自然の美しさを十分に満喫できる理想的なコースでした。カエルの声を聴きながら川辺を歩き、緩やかな登り道を過ぎ、やや難関の岩場を通ると、菊水山の山頂からは神戸の街や港が一望できました。次の目的地である鍋蓋山山頂までは、急な登りが続き、ここが今回のコースの一番の難所。ここを過ぎると小鳥の鳴く林間コースで、生徒たちも新しいクラスの友達と会話を弾ませながら元気に歩いていました。再度山公園でＪ１と合流し、昼食をとった後、池を背景にクラス写真を撮り、帰路に向かいました。帰りは下りばかりで、１時間少々で諏訪山公園に到着し、解散後三宮方面にむかいました。怪我もなく、楽しい親睦の一日となりました。

（Ｊ３Ａ担任）

S1 春の遠足

４月27日（金）、絶好の遠足日和の下、ほぼ予定通り、午前９時に六甲ケーブル下駅前を出発。油コブシを経て、六甲ゴルフ場に沿った経路をたどって、高山植物園を目指しました。往路はあまり危険な箇所もなく、多くの生徒が、歌を歌ったりしながら、あるいはおしゃべりに興じたりしながら、楽しく目的地を目指せたようです。高山植物園では、ゴールデンウィーク直前の金曜日ということで、一般のお客様も数多く訪れていらっしゃいました。ちょうどさまざまな植物がかわいらしい花を咲かせていて、園内をのんびり散策すると、また一味違う春の風情が味わえたのではないでしょうか。お弁当の後は、クラス写真撮影を行い、植物園をあとにしました。帰路は、ケーブル山上駅からケーブルを使って、一気に下山。ケーブル１台に乗車したので、満員ではありましたが、線路横の新緑は美しく、吹き込む風には春の名残と初夏の訪れを感じることができました。

ケーブル下駅で午後２時40分に解散。一日の行程を通じて、よく時間も守られ、隊も崩れることなく、よい遠足となったのは、Ｓ１の生徒の皆さんの、行事を楽しく充実したものとしたいという思いが自然とそうさせたものでしょう。混み合う交通機関では他のお客様優先で、というルールもしっかりと守られていました。

（Ｓ１Ａ担任）

S2　春の遠足

今年度のＳ２春の遠足は、去る４月27日（金）に実施されました。

神戸の諏訪山公園下の児童遊園地に集合し、宗教部生徒の司会で礼拝を守った後、午前９時15分に出発しました。途中、猩々池、再度公園で小休止をとり、目的地の神戸市立森林植物園に12時10分に到着しました。

当日は、天気にも恵まれ、また森林植物園で例年より長い、約２時間の滞在時間を確保できたため、生徒たちは広い多目的広場に散らばって、友人とお弁当を食べ、語らい、思い思いの時を楽しんでいました。

午後２時に再集合し、クラスごとに記念撮影をしてから、２時20分に森林植物園を出発しました。下山路は、昨年度までとは異なる山田道を辿りました。宅地造成が進んで、遊歩道のすぐ横まで住宅地が迫って来ており、自然を満喫するよりは、自然破壊を目の当たりにするようなコースとなっていたのが少し残念でしたが、それでも終着点に近い一部分では、沢渡りも体験することもでき、楽しいハイキングとなりました。

１時間弱の緩やかな下り坂を歩き、午後３時15分終着点の神戸電鉄谷上駅前で、全員無事に解散しました。学年が上がって最初の行事を皆で楽しめたことを心から感謝しています。

（Ｓ２Ａ担任）

S3　春の遠足

４月27日（金）、Ｓ３生徒で摩耶山掬星台の登山を行いました。

９時前に阪急王子公園駅前の公園に集合し、礼拝後出発。妙光院前より登山道に入り、行者堂、旧天上寺跡の史蹟公園等で休憩を入れつつ上りました。昼前に摩耶山掬星台へ到着、昼食を含めた長めの休憩を取りました。その後天狗道、稲妻坂を抜け、起伏の激しい道を通りつつ布引ハーブ園に降りるコースを辿りました。

前日は雨天が心配されましたが、当日は一日を通して非常によい天気になりました。そのため徐々に太陽の照りつけが強くなり、史蹟公園前の長い階段では暑い中、なかなか登り切るのが大変でした。また掬星台から先の道は足場があまり良くない岩場を下る部分もあり、全体として決して気軽なコースではありませんでしたが、最前列から最後列までほとんど間が空くことなく、全員が全行程を元気に踏破できました。また道行く他の登山者への心遣いや挨拶も忘れることなく、最高学年にふさわしい遠足になったのではないかと思います。

ハーブ園入口での解散後、ゆっくり園内を見学しつつ異人館通りへ下りていく生徒、ロープウェイで上からの景色を楽しむ生徒など、思い思いの方法で楽しみながら帰宅する姿が印象的でした。

（Ｓ３Ｃ担任）

春の子ども会報告

4月30日の振替休日に「春の子ども会」が行われました。「春の子ども会」は近隣の児童擁護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす、50年以上の伝統を誇る行事なのですが、今回は6施設の子どもたちを招待しての開催となりました。今年度の主催は関西学院高等部。神戸女学院の生徒たちは高等学部自治会の役員を中心に、何度も関西学院に足を運び、入念な打ち合わせと準備を重ねてこの日を迎えました。

当日は、朝9時過ぎから送り迎え係の高校生に連れられて各施設から順次、子どもたちが関西学院に到着、10時前には全員が揃い、開会式が始まりました。午前中は大学の中央芝生にて思い切り身体を動かし、お昼には食堂で関西学院の方が用意したお弁当に舌鼓を打ちました。午後からは高等部校舎にてさまざまなゲームを楽しみ、午後3時半から閉会式、午後4時には子どもたち全員が高校生に付き添われて帰路につきました。

高校生たちは子どもたちのパワーに圧倒され、振り回され気味ではありましたが、子どもたちと同じように、またそれ以上に楽しんでいる姿が印象的でした。あいにくの曇天ではありましたが、それを吹き飛ばすほどの笑顔に溢れた一日となったことに、けが人も出ず無事に終えられたことに、心より感謝して「報告」とさせていただきます。

（高等学部自治会顧問）

体育祭

今年の体育祭は、6月5日(火)に予定通り行われました。天候が心配されましたが、雨に降られることもなく、また少し肌寒く感じるくらいの涼しさだったため、体育祭に適した気候でした。

8:30から礼拝を守ったあと、入場行進が行われました。どの組の入場行進も、活気にあふれるものでした。開会式では、開会宣言・開会の辞・優勝カップ返還の後、各組組長による選手宣誓が行われました。

午前中は、綱引き、玉入れ、棒引き、200メートル走決勝などの定番競技の他に、登校競争、人生レース、棒上帽子争奪戦などのユニークな競技も行われ、熱い闘いが繰り広げられました。

午後からは、学年対抗パフォーマンスが行われました。このパフォーマンスのために、各学年の学年パフォーマンス委員は長い期間をかけて準備を進めてきました。どの学年も、準備・練習した成果を存分に発揮し、最高のパフォーマンスを披露していました。結果はS3が優勝でした。

その後、むかで競争、600メートルリレー、騎馬戦が行われ、各組の応援にも大変力が入っていました。

閉会式では、成績発表が行われ、や組が2年連続の総合優勝を果たしました。また、体育祭の運営に携わった生徒を全校生で労う姿が印象的でした。

今年の体育祭も、多くの方々にご協力、お力添えいただき、無事に終えることができました。この場を借りて、お礼申し上げます。

優勝　や組
学年パフォーマンス優勝　S3

（体育祭企画実行委員会顧問）

聖書を学ぶ会2012

中高部では保護者を対象とした「聖書を学ぶ会」を年に５回開催しています。宗教委員会が主催するこの会は、今年で６年目を迎えました。手探りで始めた会ですが、毎回大勢の参加者が与えられており、この５月の会には61名もの参加がありました。

キリスト教主義教育は学校と家庭、そして地域の教会が連携することによってその使命を果たしうるものだと言われます。中高部では、礼拝から始まる毎日の学校生活に加えて、入学者には近隣の教会を個別に紹介し礼拝への出席を奨励してきましたが、こうした創立以来の伝統もご家庭のご理解とお支えなしには守ってゆくことができません。

また、生徒たちが学院で経験している事柄をご家庭にお伝えするためには、やはりキリスト教や聖書、そしてキリスト教主義学校の営みについても知っていただかなければなりません。この会では聖書やキリスト教についての学びを通して、学院の伝統と校風の中で生徒たちがどのような経験をしているのかを、共に確かめることを目指してまいりました。伝えようとする試みの中で私たち教員にも学ぶことが多いと感じています。

ご参加いただいている方々の声をきいていると、慌ただしい毎日の中で自らの歩みを振り返る機会や、再び聖書に触れる機会にもなっているようでとても嬉しく思っています。

こうした機会を通して、これからも生徒たちのために共に御言葉に耳を傾け、共に祈りを合わせることをしてゆきたいと願っています。

（中高部チャプレン）

＜先輩からのメッセージ＞

芸術選奨（舞踊部門）文部科学大臣新人賞受賞

湯川　麻美子

４歳から習い始めたバレエ。これまでの私の人生は、バレエを中心に進んできたと言っても過言ではありません。小学校の高学年になる頃には、バレリーナを夢見て真剣にレッスンに取組むようになり、中学受験をして神戸女学院進学を選んだのもバレエのためでした。15歳で単身ヨーロッパにバレエ留学。本場でたくさんの刺激を受けた私は、海外でプロのバレエダンサーになることを決意し、両親の猛反対を押しきって高等学部を中退しました。しかし、その直後にダンサーとしては致命的な大怪我を負い、夢半ばで帰国を余儀なくされてしまいました。復帰は難しいと診断されながらも、諦めずに２年間治療を続け再びヨーロッパへ。数年の海外生活を経た後、日本で初めての国立のバレエ団、新国立劇場の設立を機に帰国し15年間舞台に立ち続けています。プロとして踊る15年の間にも、挫折や苦悩、最愛の母や恩師の死など悲しい事もたくさんありました。

自分が選んだ道が正しいのか迷った時、悲しみに挫けそうになった時、いつも悩んだ末に出てきた答えは「それでも、踊る！」

そうして続けてきたバレエは、私にとって一番の親友であり、人生のパートナーのようでもあります。そんなバレエに出会えたことを本当に幸せに思います。これからも、今まで応援してくださったたくさんの方々への感謝を忘れず、バレエと共に歩んでいきたいと思います。

撮影／Hidemi Seto

＜課外活動紹介＞

［クラブ］ **Ｊギター部**

ロシア民謡のメドレーである「ボルガマーチ」、日本の伝統的な「さくら変奏曲」、「三つの日本古謡」。これらは、Ｊギター部が長年弾き継いでいる曲です。合奏の魅力に富んだこの３曲は、確かにギター入門の曲としては難解です。しかし、それらを文化祭で共に演奏するという目標に向けて、新入生と先輩たちは共に「必死」になることで、音楽のみならず、部員たちの「心」のアンサンブルも奏でられるようになります。今年も新入生を迎え、どのような新鮮な音を響かせてくれるのか、期待しています。

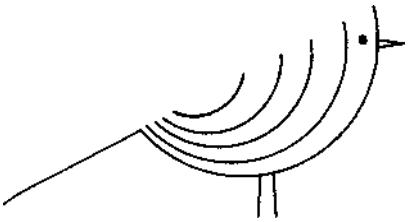
（顧問）

［クラブ］ **Ｊ文芸部**

Ｊ文芸部は基本的に毎週火曜日と金曜日の放課後に図書室で活動しています。年に５冊発行している冊子の原稿の執筆を中心に、夏休みの合宿や文化祭での展示、バザーやキャンパス見学会への参加等の活動も行っています。部員数は10名とやや少なめではありますが、部員同士のつながりの強い、和気藹々（あいあい）とした雰囲気のクラブです。

今後もＪ文芸部が、ものを書くのが好きな人達が日々それぞれに自分の言葉を磨きながら切磋琢磨するクラブとして発展していくことを願っています。

（顧問）



［クラブ］ **S E.S.S.**

文化祭、12月の聖なる集い、自主公演で披露する英語劇（ミュージカル）にむけて10人前後の部員が活動しています。作品選び、脚本編集の後、約３ヶ月間の練習に励み、１ヶ月前になると講堂での演出を決定します。一つの舞台を終えた後の達成感はクラブをより団結させます。また、阪神間の私学11校からなる阪神 E.S.S.ユニオンという連盟に属しており、８月に行われるシナリオリーディングコンテストでは昨年度優勝校となりました。

今年も色々な発表の場に向けて地道に努力していきたいと思います。

（顧問）

［クラブ］ **S 料理研究部**

部　長

S 料理研究部です！今年の目標は「挑戦！」。個性派な部員たちと日々楽しく挑戦しています。活動は、約週１回行い、携わる主な行事は、バザー、文化祭、春・秋の子ども会、サンタクロースです。子ども会やサンタクロースでは、待っていてくれている子どもたちの思い出がより素敵なものとなる為のお手伝いとして、焼き菓子をプレゼントしています。バザー、文化祭では老若男女、たくさんの方に召し上がっていただき、活動の発表の場とさせていただいております。是非お越しください！

〈学 院 日 誌〉

4月4日(水)	大学入学式
4月5日(木)	中高部教員会議
4月6日(金)	中学部入学式
4月9日(月)	高等学部入学式
	中学部・高等学部始業式
4月18日(水)	中高部教員会議
4月20日(金)	教授会
4月23日(月)	倉庫(4)起工式
4月25日(水)	臨時評議員会
	理事会
5月2日(水)	中高部教員会議
5月16日(水)	中高部教員会議
5月18日(金)	教授会
5月22日(火)	創立者記念日
	創立者記念日墓前礼拝
5月23日(水)	中高部教員会議
5月25日(金)	春季宗教強調日
5月26日(土)	愛校バザー
5月30日(水)	理事会
	評議員会
	理事会及び評議員会メンバーとの懇談会
6月5日(火)	中高部体育祭
6月13日(水)	中高部教員会議
6月15日(金)	教授会
6月27日(水)	理事会
	神戸女学院教育振興会役員会
	中高部教員会議
7月9日(月)	中高部教員会議
7月20日(金)	教授会

目 次

大学の中長期計画（2012~2022）―これからの道標―… 1
東日本大震災追悼礼拝…… 3
メアリー・アンナ・ホルブルック記念館定礎・献堂式… 3
ＫＣＣだより…… 4
2012年度愛校バザー…… 6
新任のことば…… 6
留学報告……15
人事・学内人事・慶弔・栄誉……16
神戸女学院教育振興会寄付金・その他の寄付・現物寄付…17
神戸女学院2011年度決算報告及び2012年度事業計画…18
新刊・CD 紹介 ……23
史料室の窓・ホルブルック先生のこと……25
記念樹いまむかし……26
オフィスの宝物……27
大学報告
　音楽学科舞踊専攻第６回公演……28
　大学春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）…28
　家庭会大学部会総会報告……29
　2012年度 大学・大学院入学試験結果概要…31
　2012年度 在籍学生数 ……31
　2011年度 就職決定状況 ……32
　2012年度 キャリア支援プログラム（予定）…33
　2011年度 大学図書館報告 ……34
　WHO 承認活動「運動器の10年」障害者日本縦断駅伝完結編に参加して…34
　受入れ留学生報告……35
　留学報告……36
　中期英語留学報告……37
　中期海外研修報告……37
　語学研修報告……38
　私の研究……40
　課外活動紹介……41
中高部報告
　2012年度中学部入試結果報告……42
　中高部図書室報告……42
　2012年度中高部受け入れ留学生……43
　2011年度学校評価について……44
　中高部 P.T.A.報告 ……46
　Ｊ１デイキャンプ報告……48
　春の修養会報告　大阪水上隣保館訪問……48
　Ｊ１春の遠足……49
　Ｊ２春の遠足……49
　Ｊ３春の遠足……50
　Ｓ１春の遠足……50
　Ｓ２春の遠足……51
　Ｓ３春の遠足……51
　春の子ども会報告……52
　体育祭……52
　聖書を学ぶ会2012……53
　先輩からのメッセージ……53
　課外活動紹介……54
学院日誌……56